



邨名所圖會

九情記



都名所圖會卷之三目錄

左青龍

稻荷土師圖

稻荷社

東福寺

通天橋

新鮭野觀音

同権現

三十三間堂

矢救之圖

修成院

菅源院

大佛殿

耳塚

洛東陶工圖

小松谷正林寺

清閑寺

歌中山

地主権現

子安觀音

戻山正法寺

三丰坂

八坂法觀寺

庚申堂

三の峰

田中社

萬壽寺

泉涌寺

杖園

妙安寺

後白川院

寶生院

智積院

新日吉

大佛餅屋

継信忠信塔

豊園山

阿弥陀峯

音羽山清水寺

音羽瀧

西大谷

鳥邊山

高屋寺

菊岩

伽羅觀音

七觀音



安井觀勝寺
 下河原
 花見圖
 東大谷
 吉水
 瓜生石
 佛光寺廟所
 小瀬治田地
 蹴上水
 天智天皇陵
 深谷
 本願寺田地
 牛尾山
 金毘羅推現
 蛙ヶ池
 双林寺
 長樂寺
 知恩教院
 白川橋
 植髮堂
 神明社
 日固
 四宮川原
 荻集滅道
 蓮如上人塚
 南禪寺 駒ヶ池
 午王地社
 祇園社
 西行菴
 真葛原
 一心院
 淨猿堂
 明智首塚
 東岩倉
 姥ヶ懐
 法羽社
 小町寺
 西本願寺 淨坊
 永観堂
 菊水
 二軒茶屋
 西行樓
 園山安養寺
 宗春院
 栗田天王社
 長田首塚
 將軍塚
 淨廟野
 花山
 山林
 東本願寺 淨坊
 悲田梅

來道松
 住蓮山安樂寺
 吉田社
 六文字送火
 白川瀧
 八丈龍王
 高野川
 大系里
 音金川
 寂光院
 比叡山
 元黒谷
 當の池
 藤谷方盡寺
 鎧掛松
 百万遍念息寺
 下菜寺
 一系寺村
 赤山社
 八波里
 勝林院
 呂律川
 汀桜
 日吉山王
 横川
 若王寺
 該合谷
 紫雲石
 銀岡寺
 將軍地藏
 北山淨坊
 玉山社
 脊競石
 來道院
 後鳥羽院塔
 臈清水
 無動寺
 飯室
 光雲寺
 拂門淨
 真如堂
 月待山
 白川石伐
 詩仙堂
 淨蔭社
 竈風呂圖
 融通寺
 古知谷阿彌陀寺
 江文社
 近江八勝遠景圖

夫本
二月や
夕
初午の
あけ
いなりれ
松を
わらわ
と茶も
た
光俊



三の峰稲荷社

後拾遺
いろり山

三の玉くら

くらくら

我福丸

くら

神も
あまよ

惠美法師



三の峰稻荷大明神也。海内大和太務伏見の南小ありは昔人皇四十三代
元明帝元祚和明四年二月十一日午の日にふみ生誕し、ゆふ奉社尊一
宇賀清魂神尊二素盞鳥尊尊三太布姫上中社四大神此二神依
尊五座と稱し弘長三年に告あひて文永年中に依存するなり拾遺
又田中社の客人神大歳神の鶴と化して稻荷實を會んて生現し、ゆふ
けゆふ一切の毒を飲りて依忘るゝ人喜八事故贈大政大臣源宗朝臣
時平三國社を修造と又永享十年に社依之の峯より今地小移を
より上の社ハ宇賀清魂神尊依神冊尊と崇むる二月初年系ハ
和銅年中二月初の午れ日出現より恒例の系来とるる倉稻神縁也
よりて土釜黍粟等依土産とるるる古ハ神本の枝の枝なりて
帰る家不收しとて

初午をよめる

稻荷の木の枝の根の深きくあまりくく人の心をたらす也

殿仲相伝

三枝峯の清住連張毎歳正月又日あり

古山の木後小形あり今ハあ個て
小の流と蘇とありて根川とりふ

遊のありりてすまい稻荷の木の枝の根の深きくあまりくく人の心をたらす也

稲荷の木の枝の根の深きくあまりくく人の心をたらしめ

いありの木の枝の根の深きくあまりくく人の心をたらす也

例系ハ四月上旬の卯の日神樂五基九系此清張所より東寺南北大門

を挿入て金峯れあに神樂依と人産子ハ神供と頭に載て運び持とく

缺し僧侶ハのりはく出て法施し東寺古勢の傍心とりめ一心の

衆僧ハ東西小烈し弦呂ハ東のりに整具嚴重き糖ひ休し

あらぬるまし是と東寺の神供とり近年安永三甲午年より系

礼の式再興ありて仍興れ首の勅裁論旨弓楯の神具かどく興る

神樂ハあ後小ハ社司のめんく踏るまて供奉し唐鞍の神る三足具

外大幣排醫管蓋錦蓋多きのあらくはくあり魏々備々とて

壯麗多の系式あり



東福寺



東福寺北門
萬壽寺



惠日山東福寺(五山)北(第四)より大和(大略)一の橋(れ)あり當寺(北)門(の)
 聖一(國師)諱(の)辨(因)發(別)業(科)れ人(あり)十(歳)め(て)天台(宗)と(ま)ひ
 十(五)才(あり)て之(大)妙(法)終(て)十八(才)ありて園(城)ち(あり)て髮(刈)利(東)丈(木の)
 戒(壇)の(ほ)り受(戒)せり(あり)と(た)三(井)を(出)く(野)別(長)樂(寺)小(り)と
 栄(胡)小(隨)ひ(て)別(傳)れ(道)依(す)め(び)程(その)奥(有)依(極)ん(る)依(款)一
 人(皇)八(十)六(代)四(系)院(の)清(宗)嘉(禎)元(年)に(入)唐(一)宋(の)徑(山)寺(を)學
 を(師)と(せ)り(斯)て(去)年(と)終(て)仁(治)二(年)に(秋)歸(胡)せり(寛)元(を)子(花)洛
 小(宅)り(九)系(丈)相(國)光(明)峯(寺)殿(下)より(東)福(寺)依(賜)く(信)穢(せり)
 弘(安)三(年)十(月)十(六)日(七)十九(才)ありて(遷)化(を)偈(曰)利(生)方(便)七(十)九(年)故
 知(端)的(佛)祖(不)傳(遷)化(の)日(當)ふ(れ)竹(本)色(依)白(色)み(衰)と(双)樹(白)く
 枯(り)九(十)四(代)花(園)院(れ)清(宗)正(和)の(く)め(溢)を(聖)一(國)師(と)宣(方)を
 揚(る)凡(國)師(れ)號(の)足(より)く(は)る(と)せ
 山(門)の(ぬ)ぬ(雲)園(と)く(入)横(額)あり(足)利(將)軍(義)持(公)れ(筆)あり
 當(寺)れ(號)の(南)都(東)丈(興)發(の)兩
 別(を)合(せて)用(ゆ)り(あり)

佛殿に本尊の釋迦佛法堂の潮音堂と號を額に五尊の像あり
天井に幡彩の初光兆殿司の像ありけ人大道和尚の像あり
諱の明兆字の吉山あり凡まる繪の妙好あり多記小違あり龍
を画に大小とび不動とありての史をりえりてや或は龍を画
にいまご生身の形をんを預く佛神生身の形をえせしめんと
持念せりふ思園比水漲上り生身は太龍目前に出現せり其形を
うりて天井に画兆殿司減後小画龍をび出く登天と云々傳入
其後將野光頼星を画今に幡彩ありり當寺に涅槃像の應永
十五年六月殿司五十七歳ふして画りり眼をみあり奉朝を双乃
像ありとせふ名高し其外當寺に圖畫多し一生画る繪具神感
を傳へ福壽のふより出る今繪具谷といふ
方ふれ額に張即之の筆選佛場の額に徑山無準の筆を奉尊の
文殊菩薩聖觀音依安並に當寺の鎮守の成就宮といふ
石清水かき
春日稻荷山王

五社を光明筆寺殿に建立り東司の額に張即之の筆十二重の塔の
比良明神に告ふりて藤丞相道家公より依違る圓拓に古樹の圓山
園師宋園より勢才の厨に高梁も唐本ありてありりも異色を海
常樂房に額に光明筆寺の筆謚聖一園師に勅額に持明院に震
筆あり祖堂に中央に達磨百丈禪師臨濟禪師の像を安置に
後壇に光明筆寺殿下に經徑山無準禪師の像あり傳衣園に
毘沙門天藥師觀音と安に星岡山の昭堂あり
通天橋に額に普明園師に筆橋下の溪を洗玉洞といふはもとりに
楓多し秋のそく紅錦に色ありりりるを法陽乃壽觀とる十月
十六日の岡山忌あり俗に各當納とて群集に
五大堂に不動明王と安に正月廿八日火災除滅の札を安に文字書是に
萬壽寺に當山に山門三聖の因あり昔に六条坊門あり五山乃
別筆あり



泉涌寺



泉涌寺惣門
新熊野社



東山泉涌寺ハ大和太海二の橋北にあり當寺の初ハ弘法大師ハ岡
 基より其後文徳帝ハ清宇齊衡三年小太大臣緒嗣公再建あり
 て天台宗とさし仙遊寺と號を此山ハ仙人拈びし人あり中興の
 岡ハ後法法師號ハ我禪より弘法天台真言禪律ハ四宗ハ
 兼學と當山の麓ハ靈泉涌出し之を號を泉涌と改む
 梓後法法師ハ肥後國飽田郡の人あり仁安元年八月誕し四女を
 天台法道との孫曉が身子とあり十八より落髮し十九よりて
 左衛門尉親善とあり具足戒をうけ二十歳を律師と成り
 とめ宋國にまゝり四十六より嘉定四年二月廿八日歸朝せり
 建保六年に和州の刺中丞信房が崇教小よりて我師地泉涌寺
 を寄附せりまゝり當寺小僧職して後堀河院の清宇嘉祿三年
 閏三月八日廿二よりて遷化せり
 天子ハ官寺とありよりハ十六代四條院を權輿とせりハ帝隆徳の時

我禪々々と宣り後仍我禪和尚再生して天子の位に昇り四條院と
出誕し一人より一人の差に人々を足らり収束代に帝當ら
藥王奉る後前帝神主殿の前にあり

佛殿の存尊の弥勒釋迦阿弥陀の三尊を安んじ東山より額
張即之の筆あり

舍利殿の存尊の佛牙の舍利あり二重の金塔に安んじ此佛
牙れ由來とるふ佛涅槃入りの佛時羅刹足疾鬼に収束し
佛牙を掠奪たり一版韋駄天像をくり人々を益夜小教を

身を教し終り終りして佛滅後一子六百余年を経て大唐に白蓮道宣
律師戒香薰修れ威徳冥感も通し々々韋駄天の事を

三皈八戒をうけて具報悉く此佛牙取らげりまより人々に傳り
白蓮寺小綱の金剛の寶函に秘しおける日本に渡りし者なり當山中
興の開基後法師れ末身湛海我師れ宋國小渡りし者なり慕ひ

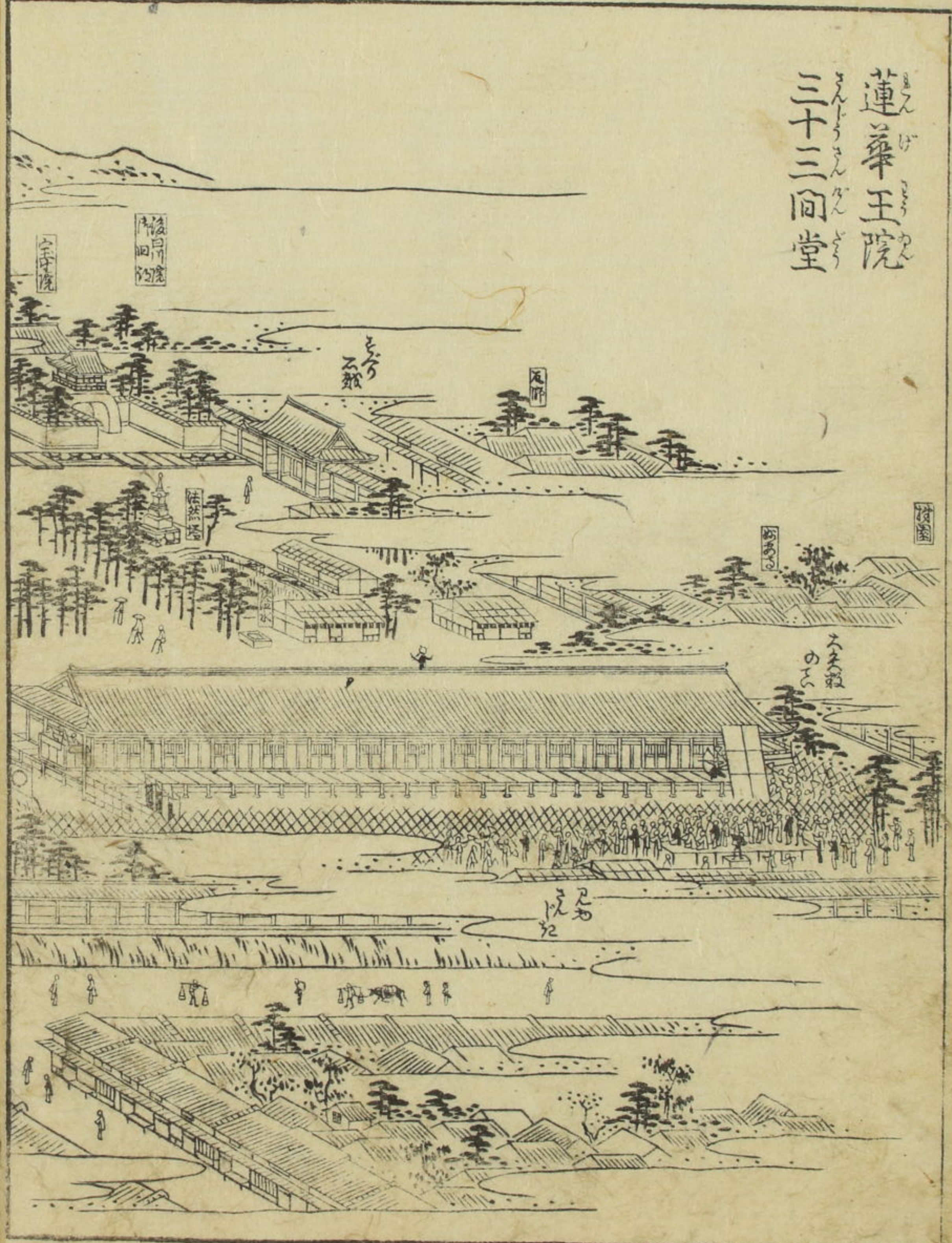
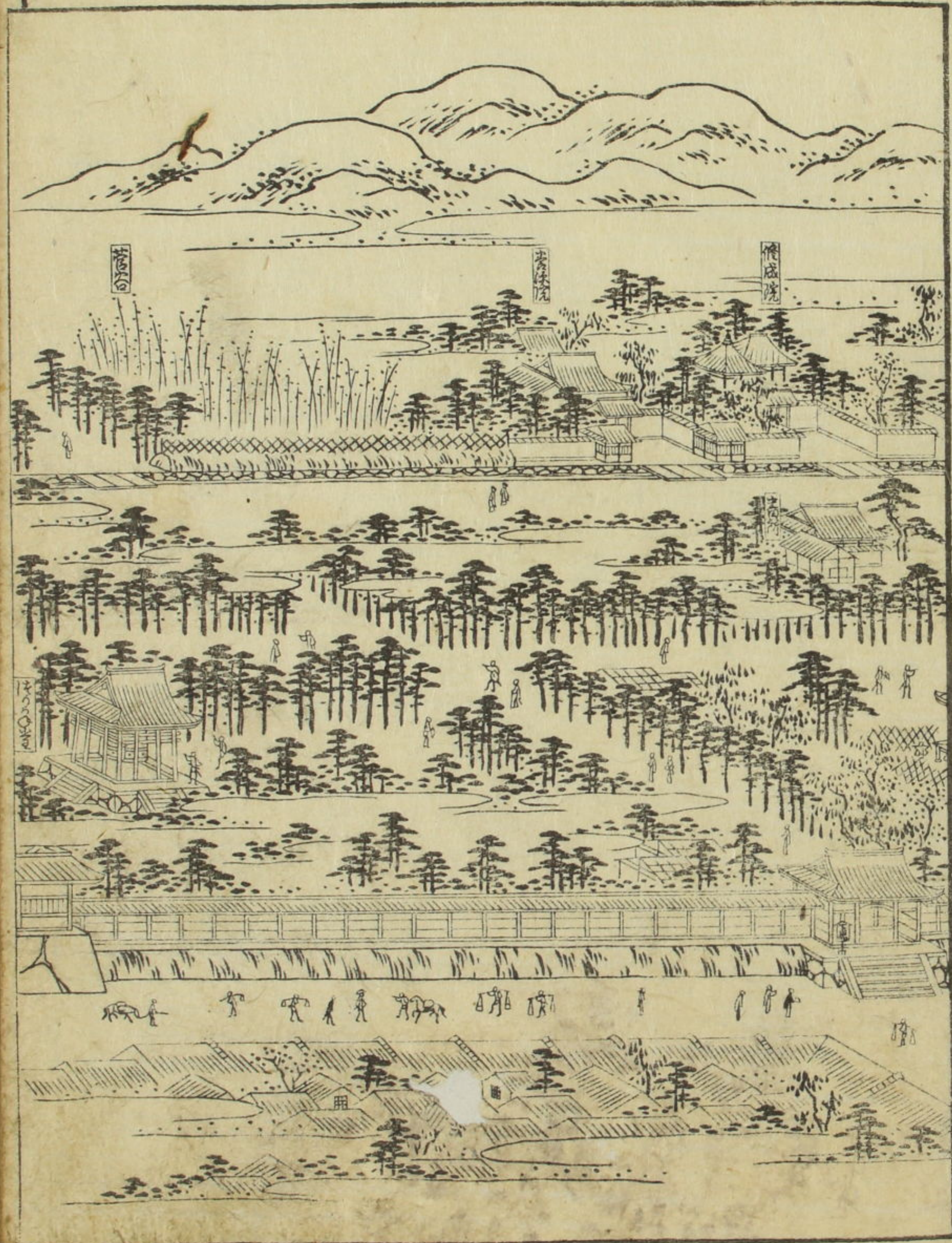
白蓮寺小請一赤梅檀を供して佛牙を恭敬し作信れあり竊小舎
利致悉くのよき本々れも叶いどと空く奉り小歸し猶志然やむら

かき入唐し二階の橋門三重に塔塔をうけて袖袖に陰漢小く入る人
まはに原軍小至り白蓮寺の修造成就し大流等甚源の志致感し其
徳の凡人小のざる事致りて酬答を來賓に仁とまはは流令一回有り

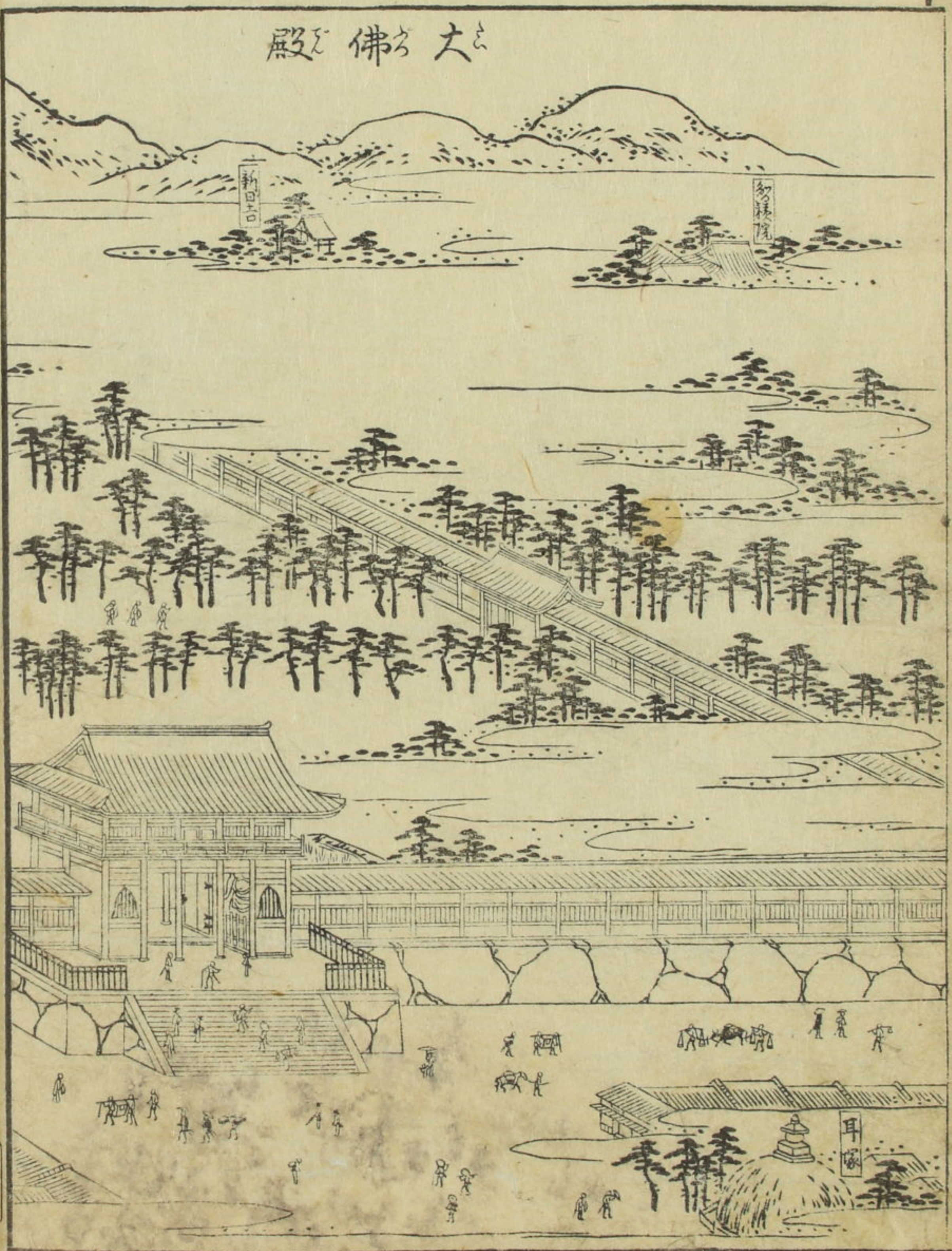
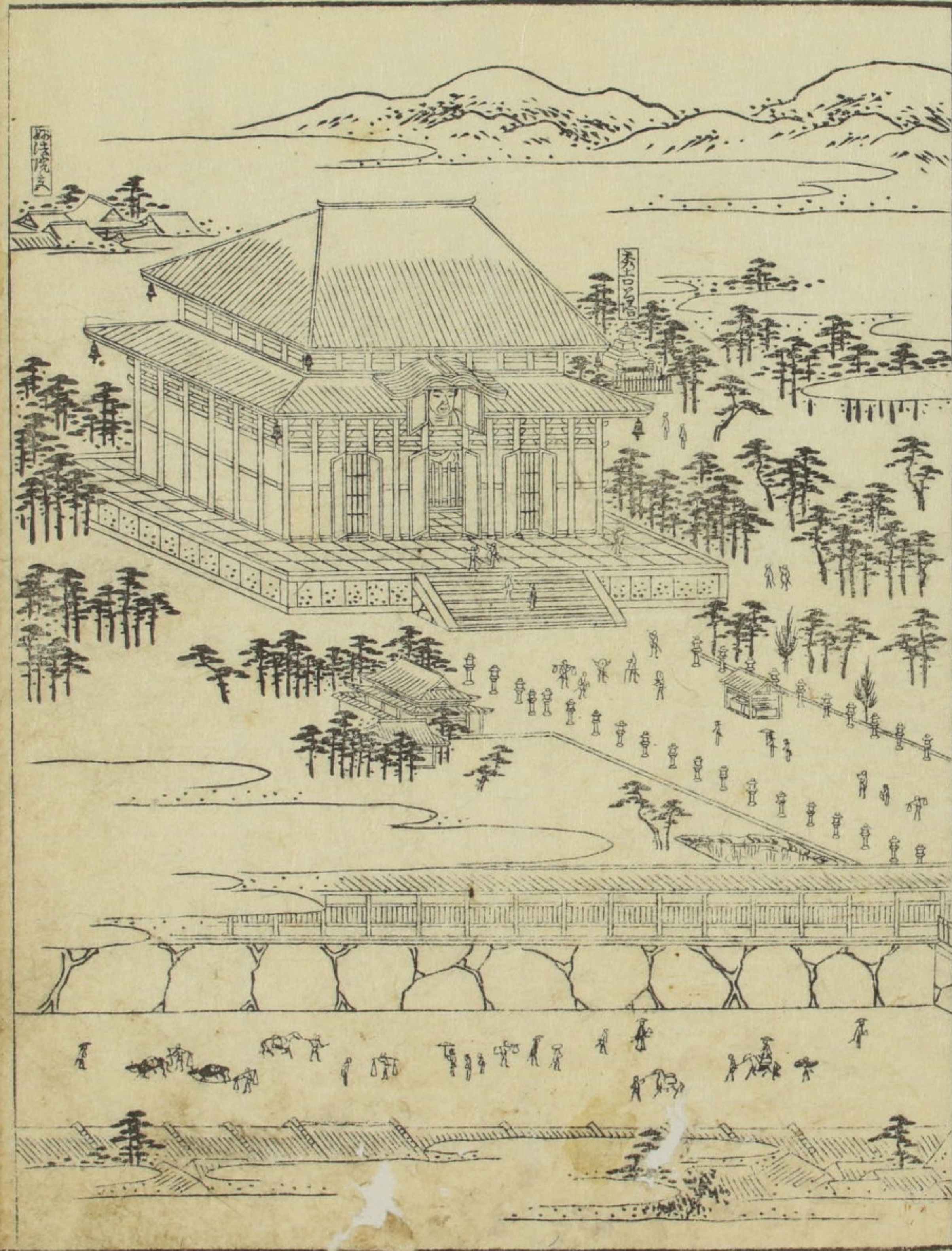
一六足以万里渡海に奉懐に偏小佛牙の永法あり二夜來朝乃ま預
まうりまうり舍利の利益をまうり具小述り其佛牙の付属をのう
り欽喜し涙をたきて帰帆の鏡をたてよとゆり彼濟舍利と奉

朝小うり一當寺の導師と崇まら
觀音堂に奉尊聖觀音の玄宗皇帝楊貴妃小別まのりて追善乃こめ
把の貌をうりて修りゆり補陀落山の額も此帝れ等之

新熊野觀音の弘法大師の修り西國順礼觀音の具一あり
新熊野社に後白河法皇れ佛體ありて紀州熊野之所授現と勅傳せり



蓮華王院
三十三回堂



蓮華王院三十二回堂後白河院の御願として備前守平忠盛奉切

千體淨堂堂東南北六十六層二層板壁卒予八千手觀音乃

坐像ありして淨丈八尺他の康慶あり二十八初衆おのく壇上に安坐る

千手觀音一千體の堂四左右よりはり運慶運慶此支他なり

柀後白河法皇の常に頭痛れ淨燈すままの醫療さはくりり

りも其驗更ありありの御慈跡に御幸ありてまはり祈らせぬみ

推現告く宣入中の法場因幡堂に天竺より海妙醫ありりり

治療後更ゆり足五依て永曆二年二月廿二日因幡堂に糸懸りて

ゆこささり祈めみはまる夜貴僧忽然として又告てり法皇此前

生い然時にありて蓮善坊とりみんを海内に行脚して佛道を修めり

其薰功ふよりて今帝位小昇きりるも前生の髑髏いまうこ栲

どして岩田河に水底あり其頭より柳の樹貫て生る風に吹ぬに

勅推と則今身に響て此燈照るせり意たの野成るまい苦惱成

多るべしと香水紙にて法皇此項は洒と思はて憂念より於てり此

所をとりてみに河底より髑髏成りり別ありり紙記書れ頭中み寫

三十二回堂を建立して蓮善王院と号すかの柳の樹紙堂に梁と

まさりむ已上平等寺縁起れ意又或説より鳥羽上皇得長壽院を淨造營ありて千

体の觀音を安置と後改て蓮善王院と號すもりり

佐々本志海廣堂前に夜泣泉あり傍に池ありて表のとりり初夏小池

茶店小宮紙信して終日まり紙賞と當寺の佳境あり

大丈殿の監觸に新慈聖觀音とり別當梅坊村佛と好く八坂の青塚此的

場へ通入歸る當寺に後堂に体を射初してまり連奉法候の衆長生と

射佛れ卷成奉の當所より通矢の檢證出て其一を當りとのみ金鉢此魔

を液と尾別よりの聖聖勅なり八千等と通一貞享二年四月廿七日紀州和佐

皇八帝總矣一万二千六十三通矣八千百二十三數より一を得たり

大佛殿方廣寺の後陽成院淨宇天正六年豊長秀吉公は浄蓮之也
 本尊ハ慮舎那佛の坐像浄丈六丈二尺佛殿を西向めて東西廿
 七間南北ハ四十五間あり樓門ハ金剛力士の大像紙並長ハ二丈八
 尺り門の内外ハ高麗大あり金五尺一して長七尺
 廻廊ハ南ハ百廿五間東西百間あり堂前ハ建る石燈籠あり列圓
 諸候ハ名板刻む佛殿の表石又正面石垣の大石ハ圓々出所の名刻ハ
 諸候の紋所等あり廻廊の外ハ掃取紫紙交へて極あり
 慶長七年十二月四日ハ佛殿廻廊と同日十五年右大臣秀頼公
 公とくく再営ある寛文二年本尊銅像を改めて本像とくくあり
 右圓秀吉公ハ石塔波ハ佛殿にあり豊圓崩とて後これと堂
 とくく塔あり石燈籠ハ慶長十年九月とあり
 撞鐘堂ハ南廻廊外あり四間四方ありて柱の敷ハ十二本あり鐘
 の高さ丈六四尺指とくくハ九尺二寸厚とくく丈八

継信忠信塔

佐藤氏の兄弟ハ忠肝
 義膽ハ人ありて漢乃
 紀信宋の天祥ハも
 抑々ハこれ英也
 美名後世ハ不ハやれて
 武士とくくハ人ハ慕ハ
 貴ハむる也

石塔婆昔年ニモ
 あり星霜ハあり
 次第ハ崩壊ハあり
 土産の垣ハ小園あり



洛東大佛餅の蓋觸の則
 方廣寺大佛殿建立の時
 より此餅を造り愛する
 且味美なり一前々五箇に
 冬の方一七陸放公稱炊餅
 東坂の湯餅ふもかとうろ
 名品之唐紙凡他の額標板に
 正水孔穿りて代々あり位
 一と遠近に其名ある一



大佛餅と能存坊へ
 せうりくせ

安楽房
 竹葉

白妙れ

香の

そごそ

ゆらゆら

からんと

名の ふらふら

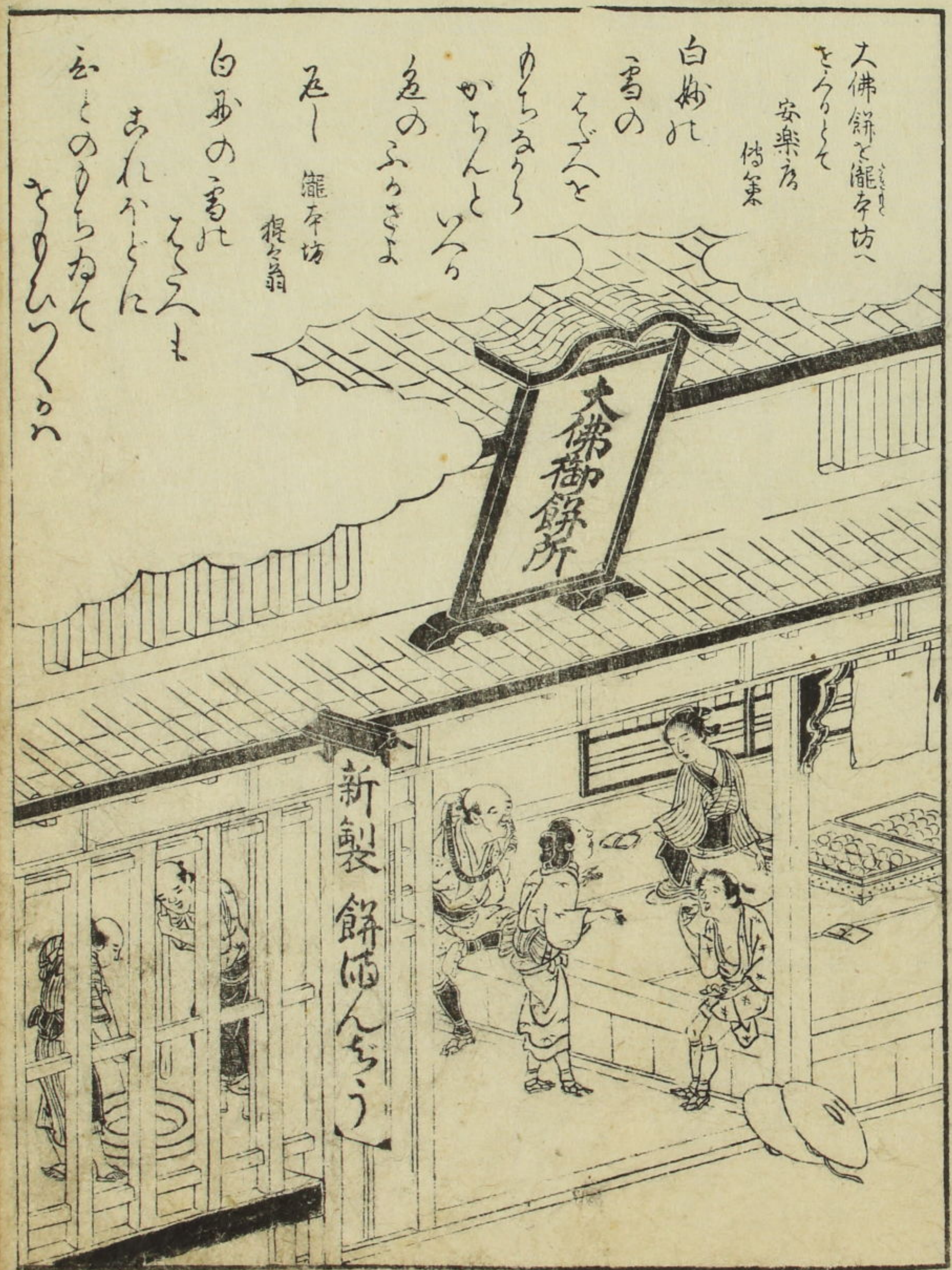
是ー 籠平坊
 根々翁

白妙の香れ

あれがとん

云とのゆらわん

きりいつらん



耳塚二王門の前より文禄元年朝鮮征伐の時小西将吉が居る
 を大將として数万の軍兵と討ち首と日本へこころをさるる
 所剽して送りけ所は埋耳塚といふ

平相園清盛公六波羅の館に今此大佛殿に地取中央めて山の五系
 あり七系取限り大和大海取門あり平正盛忠盛を代の地あり
 清盛公ふまての境地廣大めて殿舎の珠玉取飾免掛園あり
 香木取聚る南に方に大なる池あり傍に水庭を造るされ取池庭と
 あり凡亭宅に取百七拾余宇あり抑えり内府重盛公に居宅小松
 殿中七二十余所に同殿宇建續たり其外家取眷属に役所五千二百余
 宇ありとをよぶ滅亡の後もし第ありて小條春時日時房等よに本
 政道取の正慶二年五月千種中納言忠顯赤松良忠大軍取以て
 六波羅取攻めり小條時益仲時後伏見上皇新帝を供奉しと
 園東へ逃竊るは時六波羅の館断絶に

洛東五系取
 粟田口陶工安
 井親勝寺領大
 月白土を制て
 はるごとの取
 煎る取ふは
 指しと味は
 たり足凡土の
 赤といひの取



小松谷
正林寺



小松谷正林寺の大佛殿の東にあり宗首の浄土開基の惠空上人あり
 本堂の殿舎造りありて九條殿の所の附と我壇の上より高亮大師
 の像安坐し其の方に阿弥陀堂あり樓門の額に九條園白高亮の
 所造之明和年中に造りし此地にあり月輪禪定義實公の所造之
 小松殿と云法然上人の殿の所堂にあり梅の多りと黒谷傳記あり
 子系なる小松のそと致すもにて我を委託せし源空上人
 け所より西人家の小れ方に谷あり是を小松谷と云小松因大臣を盛云
 の山莊ありて燈籠堂の地あり 委の盛衰記あり

三嶋明神のや一海馬町小例あり當所の氏神ありて彦子一代
 齋を禁まといふあり

継信忠信の石塔海馬町小例氏家のうへ海小あり石れ大塔二基銘
 曰永仁三年二月二十日願主法西とあり一基の銘なり

阿弥陀が峯の豊園の後れ山より慶長三年豊后赤吉公とけり小松新なる

清閑寺



清閑寺小松谷の良しして佐伯公行れ建ちたり奉尊八千の親馬
の立像菅神の御化あり

高倉院の陵苗寺小あり

治承五年四月十四日新院苗御清閑寺小く燦とす

新古

お小い一君の御化ありと人の御化ありとを悲しむ 法華院

小督れ墓の後のたのむあり高倉院の御新愛を崇り橋町

中納言の女あり 妻のまお物盛衰花あり

歌中山を清閑寺の小音羽ふの間をいふ

ひり清閑寺の真燕僧教と人信りあるまふん門外よとすそて切

り人をさんかゝるおろし髪をさちてさた女れさちりゆとんと忽ち

愛公やりあむをわいひくさ候きて清閑への乃何れを言及れ女

足るんふまより人のそろりてはここのたをいそむるま

とひ捨てて姿とて失り女化人を信り書具の清閑とあけ申ふ

音羽山清水寺



権中納言俊忠

新勅撰
久々これい
き程の
ころ
いかにと
見る人
みこ小
白き
物故

音羽山清水寺の本尊十一面千手千眼觀世音菩薩脇士ハ毘沙門天
地藏菩薩なり杵當寺ハ本國江ノ東大和郡小幡寺ハ河内延徳
宝龜九年の夏夏夜感得るありて本津川の辺り小幡寺に
一の流小金糸の光あり源氏為七直小幡寺ハ一流の流るり傍とこれハ
芽ふたふた席小白衣を着て老翁あり延徳ハ席小入之御身ハ
いらぬ人ぞ翁ハ曰ふ家名をいぬ地ハ何なり既ハ二百歳も及べり
常に千手真言を誦ス我貴僧と侍と久し東にゆくと仰り
志ありて御身志をくあらば何れ我ハ其本と云て大悲ハ像と仰り
精舎を建ん願あり若運く入りぬを御身我より入りては祓ひと成
就しぬ人と云々延徳之志より夏夜告われを辞とらぬ御身ハ
よまらせある大い小幡を翁ハ東小向つて菴を出て入りまら延徳ハ
所小住り或時小幡の末に翁ハてハの翁の履を拾り延徳わづく
うてハの翁ハ大悲の應現ましとらんとありと云々大慈悲乃

尊像を安置せんと祓ひあるがうちうちたゞごとく年月を送りて
延暦十七年に將軍坂上田村九壽婦のうめ小麻と稱して音羽山
小幡入の菴菴小幡なり延徳田村ぬまを遷て小幡の志ありて
告り田村九壽仰の志ありて一属延徳の相好なり神仏ハ
是即大士の化現なりと信せり家ハ婦を妻女小幡なり
妻ハ曰ハ病を治せんとも多く殺生致るは罪なりてぬり
座一具敷小幡りせと大慈悲尊像安置せりまらばいづり乃利
益ありとと夫婦心をありせり親善ありて延徳ハ寄附せん
約と云ハ殿より授けり靈本像以て親善ハ像像ハ人なり延徳
其夜着中に十一人の僧ありて又慈悲の像像ハ長八又十一面四十臂ハ千手
觀音之造り終つて十一人の工僧行方と知り後着て入るに祓禊尊
容現しハ目目前あり當寺奉る是之まら佛殿と建んとも云ハ地
嶮岨めて天地もまらけまらいと云々憂りハ其夜多く此麻きりて

屋をくわにまじふるせし六佛殿と造りて大慈大悲像安坐すなり
脇士地藏毘沙門天の延法法師に依りて田村九延曆二十年来に詔
うけて東夷征討の時此奉る小祈りしうを親世音地藏毘沙門天彼
我場小現しゆひてあらく返答しぬ日たは来小田村九古改宿府
れ宜旨に依りて堂塔と建立し勅願所とす又又日二年此奉る
をゆひて伽藍とす観音寺に改て清水寺と號せり
奥之院の本尊を千手観音の立像なりけ地延法法師草菴
の祀るりとせ

阿弥陀堂を龍山寺と號を奉る阿弥陀佛の坐像安坐すなり
四年五月十五日法然上人龍山寺を不断常行念佛を田圃しぬ
今小返轉し朝倉堂に越前の園司朝倉彈正貞景是と遷す
田村堂に田村將軍鈴鹿権現行殿延法等の像を安置す
泉水中門の西小あり靈泉あり地中より涌出り奉寒暑に絶は

地主権現れや一海に大己貴命なり例系に四月九日清水坂八坂御
れ系より當山にむりし極の名所ありて妻も孫生の比に花
一入ふりやりてさねづとてんを香と散りて瓢客れさる極
動し盃の敷らしそ歌よと詩はくりてたをぬ枝く小短尺むとび
はけしも表色の風流あり

音羽隴に奥之院の下にあり流口之と西のり人海と四季増
減なり
音羽山よりわたりてとる白雲級明ぬと告る鳥のあはれ 高倉院
みづもつた清みふれは清はせぬととる鳥のあはれ 為威
瓜形観音の悪七兵衛景清瓜をとりて千手観音に石面小殿に
景清守存するも傍の房室あり

子安観音の車舎馬止の南小あり光明皇后孝謙帝と奉る産しぬ
とて天照太神より授けりぬ一す八歩の親言と今奉る此後因よとる



大谷の本願寺の廟所あり當山初免の智恩院の境地ありて中
宗泰院小とれき後あり慶長年中にけとろ後小のり創舊号
茂みく大谷と称し當寺開山親書聖人の傳記に曰東山西
麓鳥部野南延仁寺に奉葬其の由縁伝ふりてとるに遷と
りてその阿弥陀堂西面ありて堂内小龍谷山と云類あり
廟所はその東にあり明葉堂北額あり上人の對面所の意とるの
くした石藏あり當寺の什寶を藏むる所とる俗よめれ伝窟と
りて大谷より細るに傳記にあり
鳥部野 或いふくも水の清水坂あり小松谷伝説ありてとる諸宗乃
墓所あり
三葉 分たぐる袖の衣の者人のきくくは乃柴乃高 後成
後京極撰改良經公に墓に大谷の小例岸の上要法寺領あり
世人誤て源義經の墓とて近年奉安石先生碑の銘伝建る

靈鷲山正法寺の往昔傳教大師開基ありて山門の別院あり中興
國阿上人位ありて宗旨を時宗と改む存堂を釈迦佛を安
置る阿弥陀堂の存尊の齒佛と号し阿弥陀佛の笑ひあり相ありて
天照左神宮の存堂の東廊下の上あり山下の念佛堂に
又國阿上人の丈菩薩ありて慈悲ふく常に保勢左神宮へ足跡とて
死て系えにあり付道中より骸骨あり足履履て蘇通ありて神
化して上人の如く例あり慈悲ふくり出る様ありてとるに神勅ありて
やとく系えありて故系えの人の途の末も系えの長様とのがりて
當山の坊舎ありて絶系あり洛陽に萬戸鴨川大井川に二流愛
宕ありの峯を登山崎の通船とて書院あり坐ありて眼の下に遮り
洛中の集會を延いけ院々を借りて御食應と
雪の初見ふとととろろろと眺を人々漬りり小
家集 けのなり初日の影のさまたた都れ雪の消みき人をもと 西行



靈山正法寺



鷲峰山高基寺の慶長年中に右岡秀吉公北の政所所建之乃
菩提濟之古の雲居寺小して自然居士住むしる宗首の禪
中興同基を三河和尚あり

佛殿に奉尊の釋迦佛如葉阿難を安置に達磨大師の御厨
子に政所公の御車を用いらる方丈の庵に秀吉公の御櫓
之にて宮一とら客殿南向りて襖の画に土佐光信狩野永
海弘意了溪等あり彫物彩色英麗をおせり奉養のふを親る
を安んじた小方丈の秀吉公の御櫓に和歌十首を歌まかり
聖護院道澄法親王の御筆之同山堂の額に重閑と書して
雪月堂の筆天井の政所公御車の上屋に用ひらる三河和尚
常光院殿の儀安んじた祖堂より此廊下を臥起といふ書
月堂の額ありあはれなるい秀吉公の政所の御醜舎あり
長押小二十六歌仙をいふ画に土佐光信和歌八條智仁親王

の筆あり具外内張の画に狩野古右系の筆多し山上に筆
亭へ千利休が好む所あり岩栖の良れ山版あり古れ岩栖院
の旧あり

當寺に大木の榎枝林ありて妖艶く花の盛に園中を松寫
を催し喜ば惜むのやもり多し又秋の頃も萩の花いみ
まみやじりたりへて流人れり後後と足當境に佳親
あり 姥橋の下の坊中あり

八坂法觀寺に上宮を子の草創あり古に樓門伽藍鎮守寺殿を
より破壊を経て今も終る

五重塔一基奉尊の 大日親也 東りたるを子堂あり水のくれ小寺の
薬師如来各財天歡喜天を安んじたむり 淨藏貴所は寺に信
そありたる塔大い傾く淨藏塔あり坐して持念に朝ふは
んろ小塔並りてえのぬり 元亨親書

八坂法観寺

八坂の踊の文月を
 ろりけりやの持巻を
 而はゆるくふ老松を
 眺むるにまじりけり
 目さむるにけりけり
 して塔のまふ橋を
 ろりけりやの持巻を
 の人又おんの本を
 はよりけりやの持巻を
 ろれやと申し
 つの一夜書の持巻を
 とりて定保
 延享にけりやの持巻を
 今の絶てか



八坂庚申堂の塔の西小あり大黒山金剛寺延命院と号を奉る者あり

金剛申して長之尺又寸大寶元辛酉月七日庚申小隆臨しわ日本三庚

申れ其一あり 拾捌四天まよ 殿座に聖徳太子大慈天を安座し

伽羅の観音の高倉寺の南又山乃小あり青龍寺と号に奉る者あり

観音長尺の立像あり傳教大師此像申して伽羅殿に置く觀音を

脇土の地藏毘沙門を安座し法陽観音あり其一あり

七観音の庚申堂の山一町あり小あり宗有の真言申して奉る者あり

の観世音あり則七観音院と號を中尊の如意輪観世音弘法

大師の化有り聖観音千手准胝十一面馬頭不空罽索等の六

群の化有り春日ありと整洛陽観音あり其一あり

八坂といふ小真葛原有清水坂すとの惣名あり其中に八つの

坂あり祇園坂長樂寺坂下河原坂法観寺坂靈山坂山井坂

清水坂三条坂等あり



安井観勝寺

新古今
はらひして

みれも

あぐね

石浪の

くはく

ゆき

きんも

あぐね

天曆所



安井觀勝寺光明院の安井師門跡前大僧正性演再興して久古より
藤元名所にて崇徳天皇の后妃阿波内侍の所と位せり天皇御
元の乱に漢波園へ入りて御形見の束帯に尊親御隨
身二人の像を畫てり此地より皇后小送りあり其後天皇
配所松山に於て大系經を奉寫し秘教一首紙條ありて都の
内小納多んとて送りぬ

漢字を納言入道信西奏しり若咒咀の所をよとて御經紙
を返りたりを帝大憤りて大魔王とるりて天子御眼がらう
ひらきさんと誓ひし御指の血を以て願文を書ゆしこの經の相り
奉納龍宮城史記し堆途といふ海底小志川ありに海上に火
燃て童子出て舞踏を足取御後して所願成就とて宣りま
らり爪髪を截りて六年を經て長寛二年八月廿六日

崩御し御師年四十六淡州松山の白崎に葬りたり已上御記にあり
御靈は地ふ來て夜く光を放り故に光堂といふゆゑ大園
法師といふ真言の名僧は所奉りて系統を崇徳帝尊勝御
現し行事の趣を示り大園より紙奏達し詔を蒙りて
堂塔を建立し一の尊靈を鎮免なり光明院と号しり佛殿の
本尊に准眼観音なり御影殿の後に後水尾院の宸殿明正院は
東福門院の御牌を安齋なり又弘法大師像あり眞の社を
崇徳天皇小の方金比羅權現南の方源之位頼政世人あり
りて安井の金毘羅と稱し都下れ諸人ありゆゑ崇徳帝
金比羅曰一神ありて和光の塵を曰とり權護の明眸をこり
りひ初生靈驗いらるりてそりふり

當寺の門前と新更科と号し中秋の洛陽に駭客ありて集りて
東山の月を賞し今の家居繁く建るゝびて風景は變り



祇園社

祇園社（下）の原紙面（一）多居（一）石柱ありて感神院（一）といふ堂あり
あり照高院道晃親王の嘗より西南の樓門ありて神隨身（一）に
神殿（一）中央の大政所（一）牛頭天王（一）東（一）向（一）八王子（一）西（一）向（一）の
神（一）祇園牛頭天皇（一）天皇（一）愛宕郡八坂（一）卿感神院（一）勸修寺（一）盤鍋（一）
聖武天皇（一）此所（一）天平（一）二年（一）二月十八日吉備大士（一）唐士（一）より帰朝の
時播（一）大國（一）廣峯（一）小岳（一）流（一）の少（一）紙（一）崇（一）を（一）り（一）其（一）後（一）常（一）住（一）寺（一）此（一）十（一）禪
師（一）園（一）如（一）上人（一）小神託ありて帝城守護の為貞觀十一年に遷座（一）の
るり中臣（一）拔（一）抄（一）小曰（一）清和天皇貞觀十八年疫神崇紙（一）初（一）七世の
人疾小惱志（一）奴（一）の外（一）之（一）晨（一）祖（一）日良（一）唐洛中の男女を將（一）て六月七日
十四日疫神を神泉苑（一）に送る（一）の（一）り（一）年（一）々（一）の（一）め（一）く（一）志（一）向（一）け
て祇園會（一）といふ（一）り（一）神藥を並所を（一）八坂卿感神院（一）といふ寺
を（一）は（一）し（一）て（一）神（一）殿（一）も（一）る（一）り（一）昭宣公の神殿を（一）は（一）し（一）て（一）り（一）神（一）殿
と（一）は（一）祇園（一）の（一）常（一）れ（一）殿（一）舎（一）造（一）り（一）と（一）是（一）紙（一）精（一）舎（一）といふ（一）後（一）人（一）又（一）祇園（一）の

名紙（一）加（一）人（一）り（一）續（一）事（一）祇園（一）此（一）寶殿（一）の中（一）の（一）龍（一）穴（一）あり（一）と（一）る（一）ん（一）延（一）久（一）の
頃（一）梨（一）奈（一）此（一）座（一）主（一）天（一）台（一）橋（一）井（一）其（一）深（一）さ（一）紙（一）と（一）り（一）ん（一）と（一）せ（一）と（一）り（一）ん（一）又（一）十（一）丈
小押（一）ひ（一）て（一）る（一）紙（一）底（一）を（一）り（一）と（一）せ（一）と（一）り（一）ん（一）又（一）十（一）丈
養濟前（一）の（一）素（一）菱（一）鳥（一）の（一）子（一）形（一）り（一）後（一）見（一）殿（一）の（一）丈（一）已（一）貴（一）命（一）と（一）り（一）其（一）外（一）孫（一）社
末（一）社（一）の（一）圖（一）画（一）は（一）又（一）と（一）り（一）ん（一）又（一）十（一）丈（一）師（一）の（一）神（一）殿（一）東（一）の（一）庇（一）の（一）間（一）あり（一）と（一）り（一）安（一）永
七年繪馬堂の画（一）より（一）り（一）と（一）り（一）ん（一）又（一）十（一）丈（一）日本略記（一）曰（一）天延元年五月
七日（一）祇園（一）為（一）天（一）台（一）別（一）院（一）
藥師堂（一）の（一）觀（一）慶（一）寺（一）と（一）号（一）に（一）奉（一）尊（一）の（一）藥（一）師（一）如（一）來（一）他（一）の（一）傳（一）教（一）大（一）師（一）之（一）陽（一）滋（一）院
の（一）勅（一）願（一）所（一）と（一）り（一）て（一）開（一）基（一）の（一）園（一）如（一）上人（一）といふ（一）當（一）寺（一）の（一）後（一）樹（一）
祇園濟靈會（一）六月七日十四日（一）山（一）録（一）の（一）行（一）旅（一）祭（一）礼（一）の（一）例（一）式（一）其（一）外（一）五月廿九日
六月十八日の神樂（一）は（一）此（一）等（一）世（一）の（一）初（一）所（一）を（一）り（一）委（一）記（一）と（一）り（一）ん（一）及（一）ん（一）凡（一）法（一）場（一）の
祭（一）礼（一）多（一）し（一）と（一）り（一）ど（一）け（一）會（一）の（一）神（一）小（一）奉（一）觀（一）の（一）心（一）と（一）り（一）ん（一）及（一）ん（一）凡（一）法（一）場（一）の
より臨時祭（一）の（一）近（一）年（一）三月十五日に執（一）行（一）あり（一）と（一）り（一）古（一）の（一）六月（一）十五日（一）より（一）走（一）馬（一）勅（一）樂（一）東（一）遊（一）佛（一）帝
々門（一）より（一）け（一）の（一）神（一）奉（一）へ（一）元（一）朝（一）寅（一）の（一）刻（一）より（一）天下（一）安（一）全（一）れ（一）神（一）祈（一）禱（一）あり（一）

新古今
 梅はく
 遠く名の
 志のりおの
 向のく
 日と
 あくぬ色
 の那
 石上天皇

それ梅は本朝の
 名産なり具種
 六十九品ありとぞ
 洛東の地勢温
 梅樹相應一清
 院に梅あり中
 梅樹いさごあ
 さくはむり
 梅花の詩
 具澄なり梅
 の字はく
 又字く
 長崎は
 携て
 ところく
 賞英



金玉山雙林寺



西の上人住持の
双林寺といふ
所は居をす
よ

何
め

又ぬ
壺の

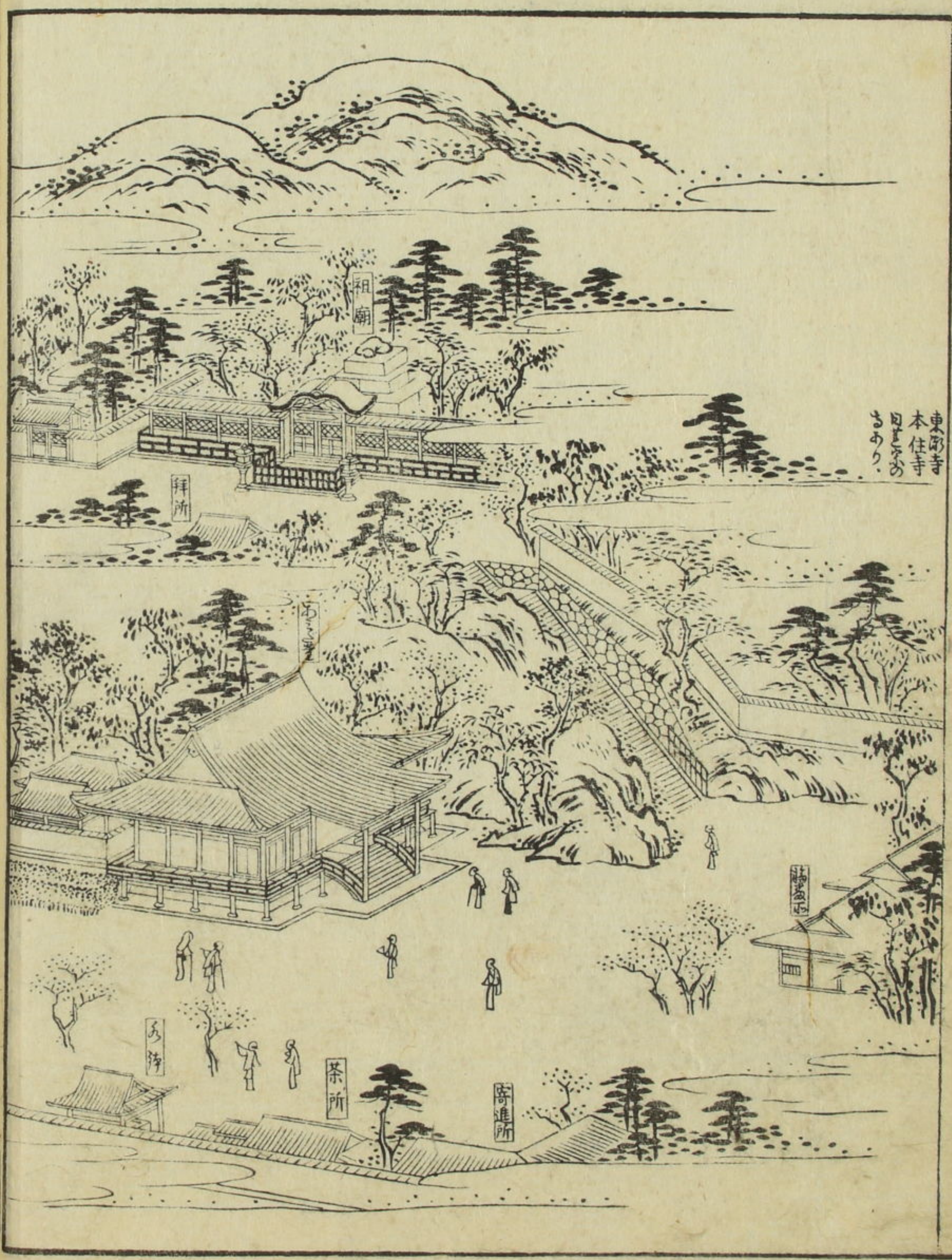
長
坂

その
き

花の
下陰

何

東大谷



東大寺
本住寺
田舎
さゆり

門

茶所

寄進所

本住寺

金玉山雙林寺の高皇寺の小山あり古く天台宗の別院ありて傳教大師の開基あり至徳年中中國阿上人移住して時宗と改む奉るの業師如未めして傳教大師の化有り鎮守の天照を神宮東北にあり西行の房西行の塔ありけ所に幽居しゆひ建久九年二月十日入寂しゆの當寺の橋へ西行法師植ゆつての愛したまふを性照の塔へ平判官康頼入道有りけりけりたふ莊ありてを流り歸洛の後居りてある終居して有り者紙思ひやり寶物集とて物語を去り有り康頼は世もむ寶をありけり辨し眞の室の佛ありけり頓阿比塔ありけり四條道場金蓮寺にとんで後ハ双林寺に因居寂しゆの撰神菴集の地也當寺の院々も風景ありて洛陽交遊の勝地有り春秋もに酬歌の聲聞新あり

近奉都鄙の縣人又塚と有りけり地は墳墓をいひる多し洛東に住居あり

大谷の双林寺小隣りて長小あり東本願寺北祖廟有り阿彌陀堂の執事ハ安阿彌の他親聖人の廟塔ハ後の山脈ふして墳土小虎石あり石の形虎ふ似せむを名とけりけりめハ開山聖人性生の地柳馬場押小路虎石町あり秀吉公の時伏見城中に移しゆり其後の地有り又あるうめと聖人北佛墓をりて其東本願寺の境内七条の小あり世の人旧地を支有りけり地は遷して元禄年中に造営あり廟前の莊嚴みやら々に撒ゆつて大谷の名義ハ秘多載る花頂のけ地も橋多くしゆ派生乃以ハ貴揚群をるせり東漸寺本住寺ハ大谷の南より坐りて山脈あり共ニ日蓮宗にして本願寺の末派有り

真葛原ハ祇園林のむが知恩院の南をり

祇園女所の旧跡ハ雙林寺門ありけりあり東西八間け地を耕せんとすハ崇徳を南北五間

東山長樂寺



遊長樂寺
路迷鷺嶺通靈岨
眼渡鴨河望帝城
心在空門齡已老
須辭俗境脫簪纓

藤季經





園山安養寺

風さつ

去る原の

夕ぐれ

秋の

やまぐせ

巻法

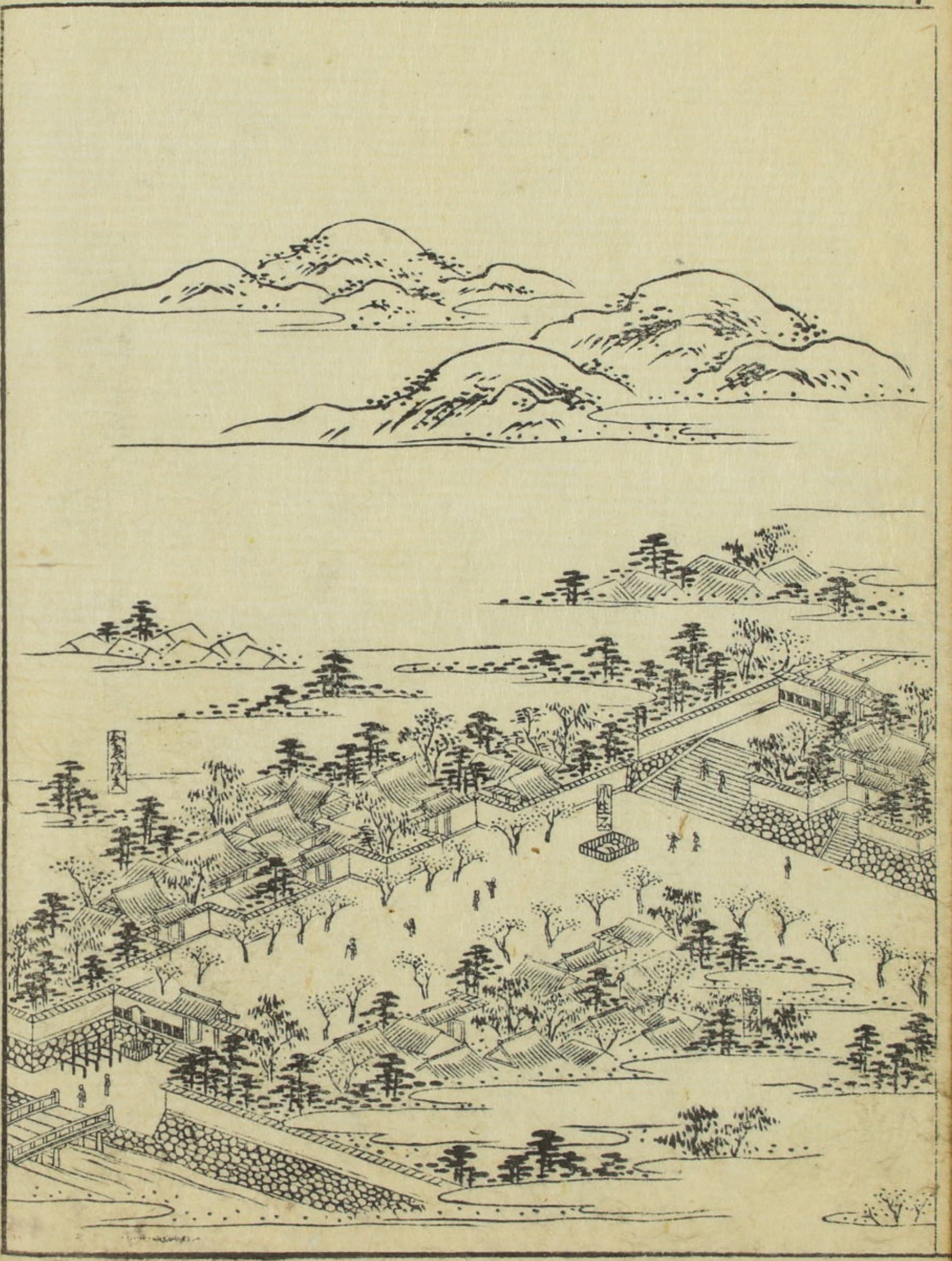


東山長樂寺の山谷の山に隣るるに、西基の傳教大師ありて、まも天
台に別院あり、當ふれ致景の唐土に長樂寺に似たりと、斯號に
と、後、國阿上人位指して時宗とあり、む、本尊の十一面觀音あり
傳教大師唐土より歸朝に、お、海上に舟をて龍神取とあり、頭より觀
音に像衣戴て、本大師に拜偈作る、ひ、たれ、勿、務、とて、お、め、き、像、衣、乃
袖、小、花、來、り、め、り、當、寺、に、本、尊、是、之、臺、座、の、下、に、蟠、龍、の、大、師、に、能、り、て
され、謂、り、已上縁記 辨、賊、天、に、社、あり、これ、神、形、も、大、師、制、能、あり、と、鎮、守
と、し、の、い、傍、に、庭、造、を、相、阿、弥、の、能、り、て、世、に、名、を、る、に、勝、地、あり
又、當、山、の、洛、東、身、一、の、風、常、と、風、城、九、陌、の、大、路、小、路、小、か、後、二、葉、山、大、宮、森
々、り、南、の、旭、の、峯、淀、の、川、流、流、ゆ、と、り、舟、を、て、眼、中、鳥、精、に、客、と、を、る、
運、華、水、の、隆、寛、律、師、と、り、台、宗、の、僧、後、の、法、然、上、人、の、才、子、と、り、て
專、修、念、佛、の、行、者、と、り、八十、歳、り、て、寂、に、其、時、に、あり、ま、ま、蓮、花、生、と、り、て
安、法、帝、に、御、衣、の、幢、に、當、寺、に、什、寶、之、
西基の傳教大師御師を、お、り、せ、の、時、に、御、師、の、
長、生、の、衣、を、御、衣、に、布、施、と、り、て、を、り、御、直、衣、と、り、

園山安養寺の長樂寺に小あり、是も山門の別院ありて傳教大師に西基之
本尊の阿弥陀如来に安阿弥の他建久年中に慈徳和尚とて、其、後
時宗と改免、國阿上人位、職、せ、り、と、り、盲人、源、照、と、り、者、琵琶、の、妙、曲
を、奏、せ、り、天、聽、に、達、し、後、小、松、院、の、恩、寵、を、蒙、り、紫、衣、を、賜、ふ、是、盲人
紫、衣、の、始、と、り、源、照、と、り、め、り、當、山、に、祈、誓、し、世、に、名、譽、あ、り、ん、と、り
と、ね、り、終、ふ、り、て、願、を、成、就、せ、り、の、當、寺、の、本、尊、は、建、久、年、
吉水、の、井、に、鎮、守、を、財、天、に、傍、あり、慈、徳、和、尚、は、地、に、住、の、也、
青、蓮、院、宮、所、代、の、
ゆ、の、吉、水、の、和、尚、と、り、 青、蓮、院、宮、所、代、の
法、親、王、灌、頂、の、時、に、の、あ、ら、因、伽、と、り、夜、涼、文、に、御、式、の、列、を、弘、し、
未、臨、し、ぬ、い、御、子、に、ぼ、り、返、せ、ら、り、と、り、
當、山、坊、中、に、書、院、の、界、ら、と、り、て、高、橋、よ、り、清、奇、典、麗、い、り、ん、方、ま、り、
庭、中、に、い、る、石、燈、臺、に、花、泉、と、り、催、し、池、と、鑿、て、い、ぬ、水、を、り、人、緑、樹、蒼、州、四、季、り、
花、鏡、を、蹴、踏、の、履、に、音、涼、く、中、ふ、も、多、藏、房、阿、彌、の、庭、に、相、阿、弥、の、能、り、と、り、
阿、彌、の、衣、に、相、阿、弥、の、能、り、と、り、 阿、彌、の、衣、に、相、阿、弥、の、能、り、と、り、
阿、彌、の、衣、に、相、阿、弥、の、能、り、と、り、



知恩教院



華頂山大谷寺知恩教院の降土宗の惣本寺ありて鎮西流義あり元祖
 園光大師宗風開發の靈地ありて吉水れ禪房とい星あり初に東に後
 今れ勢至堂れ地ありて大師入寂しぬしと也
吉水の別院南禪院ありて
 慈恵大師草創の地ありと云
 隨信のひは地と寄附しぬ昔に今れ園山と對峙一面ありて吉水と云
 至つて 台命を蒙り嶮岨を穿て平坦とて今れぬく伽藍淨建堂あり
洛東の山門に揭る華頂山の類に靈元法皇に震筆あり本堂大谷寺
 大慶あり
 の類に後奈良院に養孝とて須弥の壇上あり園光大師の像安坐坐
 西の向より翠簾を巻上り壇上り 神牌を崇奉り大師に廟塔に東の
 山上にあり勢至堂小掲り知恩教院の類に後拍原院の震筆之本尊
満譽上人化人あり
 授与しぬ
 勢至菩薩の安の池の他之
 大師入寂の時聖衆來迎し紫雲水面小影を異香水氣小遺まるといふ
 一心院に其のありて本尊阿彌陀佛の安の池の他之
 折え祖大師の傳記を鑑小員他に久米南條楯園の壽之久米押領漆

時困母の秦氏の子をたてて依欲て夫婦諸もた佛神を祈る秦氏は
判刀を欲とえて則妊身となり長承二年四月七日午時男子と誕け時秦を
空ふたるじら白幡二流降るなり七鐘西なる標の本ふし鈴鐸四方ふら
紋彩日小のやれ七夜と経て天小の是なりけ樹依誕生標と号後佛
閣を建て誕生ると號して今ふあり赤子の字を執り玉と号けゆるに教と
の殿より殿智ありてやもまら西の壁ふらの癖あり九兼ありて日圓の菩提
の室小入て学心と院と初学といふ人情小兒の量を勤つた是只人ふあり
徒小通鄙の塵ふはなる依押とて比叡山西塔れ小谷持寶坊源光ありとい
以初学書儀小日進上人聖文殊一體あり時久安三年二月十三日入洛して
初学書と持寶坊小つた源光あり依披月とて文殊の像依るなり小兒の
上洛より使者きたりいやくの聰明なりなり依智あり則十五日に登山
源光試ふなり四教義と授りた義をきいて不審をなす終る所も天の要論
なり不思議のなりといひたれ我海ありといふなりとせんや同四年

月八日小兒を相具して功徳院の河内梨皇園とて入室なり皇弟具られこれ
より依圓を發せ曰去夜の夢に満月室小へまをりていけ人小多へ三前北より
とて依我なるは年十月月發を判戒檀院ありて大系戒をうけり斯く惠
解天然ありて四散五時の瘴まの心け一心三觀の妙理玉をみる所立の義師
の教小とそり阿闍梨と感して曰学道はく多業とけ天台の指梁といふと
なりくともちたは是も又名利の学業なりとて忽師席を辞して久安六年九月
十二日十八歳ふして西塔黒谷の慈眼房觀空ありたりて初推り隱遁の
志預ふらなり演たれとちまありて出離の心とて是は然道理の聖なりと
感して法然房と号すまは源光の源と觀空の空を掲げて源空と號する黒谷小
塾居と号し出要を求むる公即なりとて此の道より生死を離る人と一切経を
披見せりなり五遍なりけは諸の經論ありては思惟するなりといふ
おとも高し遠小惠心の付生要集并善道和尚の釋義を記し指前とせり
この釋みの乱相の凡ま稱名のゆかりと順次小澤土小せりる省を判せり



栗田口
 御猿堂
 午頭天皇
 佛光寺廟所
 親嘗聖人
 植髮尊像

長田首塚

三木高岡

栗田山
日岡峠

古今
うたぬさな
よきめと
のりり
まの
あつら
ふ乃
藤小
あやら



ま本
東海と
めは
あつら
山
人なり
あえて
あを
押の人
後念う



華頂山親鸞聖人植髮の尊像の佛光の廟所の東に隣る舊青蓮院の
跡の院因小在り近來此地を以て堂舎を遷し華頂山御堂
と稱し宗廟の天台ありて親鸞宗義を極く正信偈文念佛和漢法華章
等の勤行あり奉尊の阿彌陀佛の坐像紙安坐し石の壇上の厨に在る
形を安に長く更めて立像あり小茶の直衣小袴の御衣を以て紫衣
甲形の指貫と着し雲細縁の襦袢小袴にて見立重の御衣あり作ける像を人皇
八十代高倉院御宇最安二年小聖人誕生の御記大職冠録に云く臣孫
有範卿と申御母八幡を即我を姉妹の姉子對するも我親に息女あり聖人初年より
出離道世の志願すしとされ九歳の暮青蓮院に法和尚の許に來り髮を剃
のひ清淨子と有り範尊お納言御と申るまより願獄を初る小少とて天台止觀を明
悉遂に難行を捨て易行小教を奉教念仏の一流を以て通ぬる法和尚聖人の
剃髮の御願を以て之れを奉り髮を剃り御衣を植髮せらるる髮を植髮せらる
御號一宗此門佛偈作日小くして繁昌の靈地とて有り小り

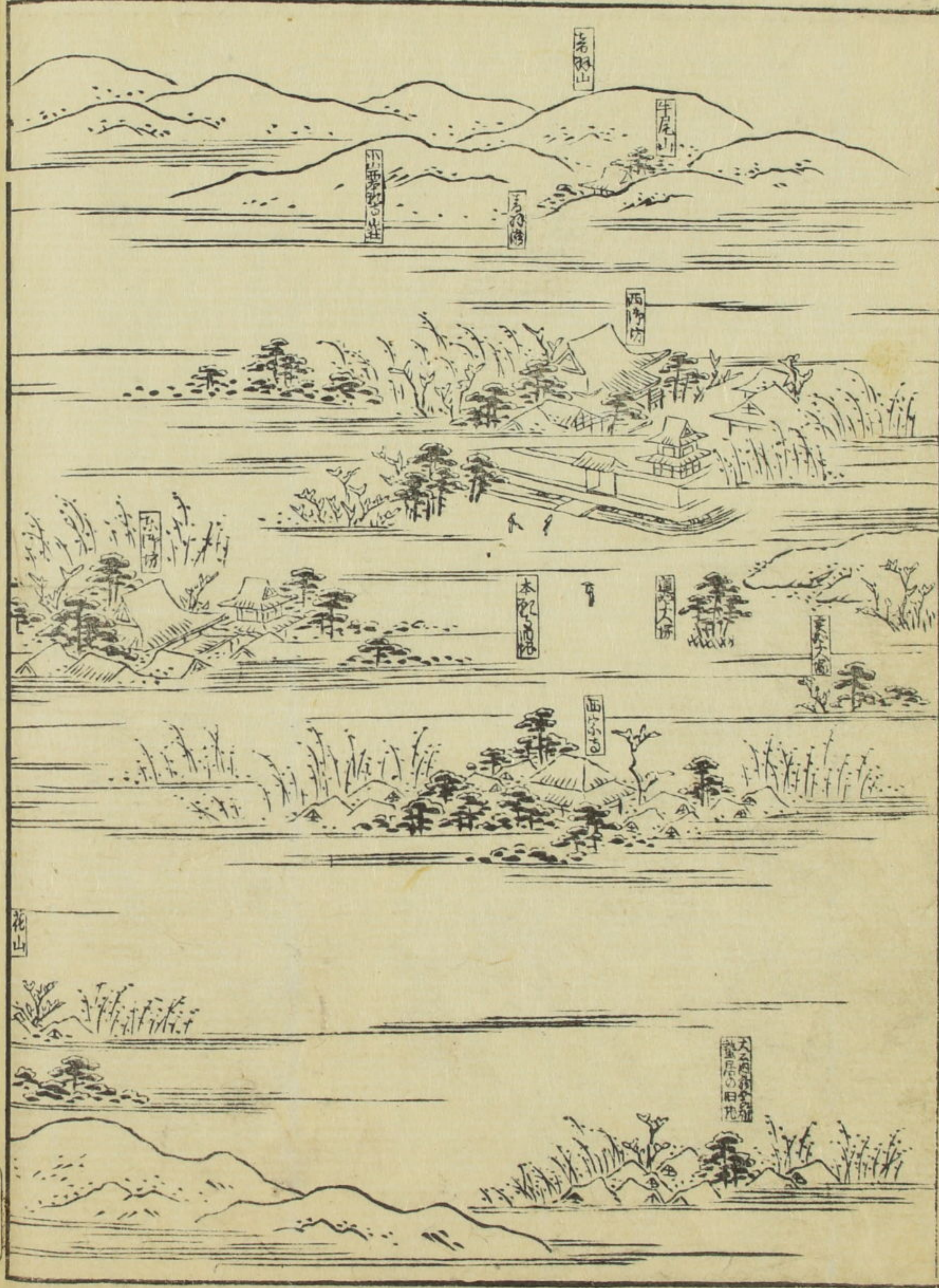
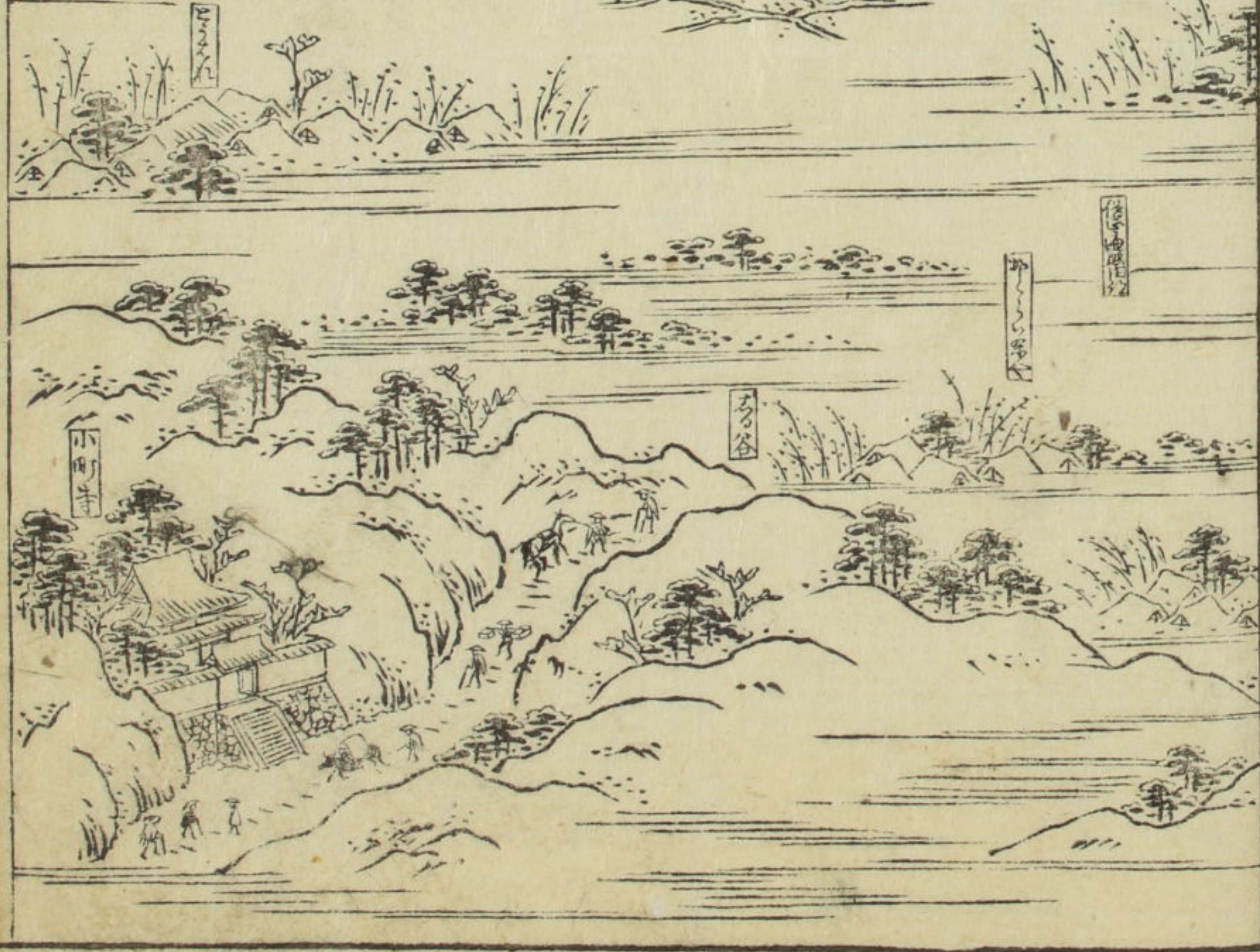
栗田神明宮の清和天皇御宇貞觀年中に初禱のゆへに
東岩藏真性院の神明宮たの山の上あり奉る十一面觀音御安坐せむり
王城の四方に經王を藏らる具石藏の二あり
今初め如監藏を以て應仁の亂に因りて
山中小大日堂不初あり每兼六月廿八日清とて拜祭たり所は安井御門跡の
みして當山の土を陶工小可なり栗田燒清水坂の土築等以て地を以て
蹴上水いむり源牛若丸金賣吉次小具せし陸奥へ越えぬひり西平家の
侍圖を市とらふ者牛若の欠お年小戲しひり蹴上ヶりの牛若丸を刀と
拔て市をとりぬ御等も故多く依捨通りありり名づけ初し
日圓の峠よむり之所西よ四面とありて其中小僧還るあり俗小娘を懐とら
千本松毘沙門堂の御道の小あり峠の梅香店に地蔵を安置し本食上人
侍して飯後を造り牛若の勞を助く量救水に石部之龜の石より佛炎異の節
後人の習を止むとて
碑の銘御待所あり
清廟野の日圓の東を以て天智天皇の清廟とむり小聖人ありしゆ人徒來の
人馬加駕り下り物取き通りり里りる後の傍るれを忍れ多しとて
上りり心より有りぬ世より十陵の身一あり天智天皇御馬小はれて

花山
山

運命

小園

新續古
名取山
峯は枝も
又人ぬき
園のさき
言厚ふ
り



山科に里を狩りしゆらして登天ありし所なり神嘗の所止ふ
所小陵を建てたり則神嘗をく陵の南小あり 天皇の神嘗は石の
吉祥と安祥寺の神嘗の東あり直言宗ありて紀州高野山寶性院乃
帶所なり俗呼んで高野堂とす本尊六十一面觀音あり信小地藏堂あり
惠運僧都入唐の附將來しゆら地藏あり當寺は條殿皇妃の神嘗ありて
貞觀元年の建立なり 初の地は如意山檀の谷小あり長年申今地也
山科毘沙門堂の天台宗ありて神嘗は法親王あり奉る毘沙門天の立
像ありて因基の傳教大師あり

諸羽明神の社へ大兒屋根命天を玉命の二坐を鑿する 社は東と西の
才四の宮儀ありしゆら今又今の小園城より流る小川
廻地城の諸羽の東あり小野皇の作りて七道の辻の具つり平清盛
の命ありて西光法師の建立なり
退分京師伏見大津の驛路あり道分の石小柳の保花の紅の文字に刻む

音羽山 又牛尾山 退分より東南のふり音羽里小山村の道のなり

ありて二流の山川あり是と音羽川とふふ山科音羽流りて古より
和歌多し 延徳の段高水寺殿三品花溪と官邸のけ流と石まんだ小僧ふ
て牛尾觀音堂あり道小安履石あり 行藏居士の背け弘法腰掛石粘床流
洞子流る音羽流る流の右あり仙人窟五丈巖またの岨をゆるるる
四下あり地が淵の險活のたふありて徑石は其石あり
新後撰 音羽の松吹風の音ね川ありも涼しと乃下る 宗尊親王
後園寺道
音羽川ありけの波も岩越て國のさるる音ね川あり 定家
時雨の音音羽の黒近々れとねの人れふりていな 前九大臣
牛尾山法嚴寺の七回の上小あり真言宗ありて本尊六十一面觀音ありて
の神作觀音不動毘沙門天又行藏居士延徳法師の像安んずる
帝の社神明社あり 不動觀音天狗板の傍あり黒泥巖金生水の堂三前あり
相澄大師は西品とて御幣金泥の曼陀羅を奉寫しゆら



瑞龍山左平興國南禪寺東之際の小にあり舊 龜山法皇托皇居ありしと

岡山大明國師小幡て五山之上の號を蒙る當山の記小曰 太上皇龜山

院弘安年中小幡地離宮をいしるのみ正徳のち先宮中小あり

一なるやちりて嬪妃大なるをあり陰陽頭ふらむに上座しむり小故

寂勝光院僧正道智むり小棲世小約の僧正と稱は其雲のちりて

當山に秘惜して障屏をさるるり故小顯密の諸師咒術巫祝なる

ちて百計を以て拱く同四年東福の釋普門當寺の相山あり無國勅命を請る

二十の禪侶を率て宮中小安居し只ゆるりて被多ぬりて坐禪しりた

物怪跡を匿し上下安居後上皇膚感のあまり普門を祀て伽梨鉢を

をうけぬる又宮をあつたあり寺をりし

室をりし上櫃の鳴鶴の画の古法眼の宮を寺しりしり今の龍淵遂小命ありて佛敎を創建しりた

釋迦佛の坐像脇士の文殊普賢あり又金剛力士の二體を安置し

い力士の聖像ハ四條のち南の壇よりい 龜山と上皇の神牌を宗なる

傍小の達磨百丈臨濟の像安置し佛敎小量華堂山門ハ五鳳橋と

號して寛永年中藤堂高虎の再建あり唐本乃

白檀二株山門の内より石の大梵第一基山門の外より高武丈余

石の白川の産りて希代の大燈修り蓋石の寶瓶小ニツ引龍の紋あり

又池輪の上小文字あり南禪寺山門石燈修實永永九年九月十五日後戸明神ハ

奉龍池の乾小あり皇當山の鎮守あり是に修り帝の牛飼の舎人死して靈

あり土人おれ糸糸と小祠を建り度永年中に南禪院より龜山法皇の衣彩

仙英俊和尚大祠を造りて山門の境致しりしと

安並及金地院より清宮ありて白砂に鳳凰竹を植り橋門左右ハ隨身乃

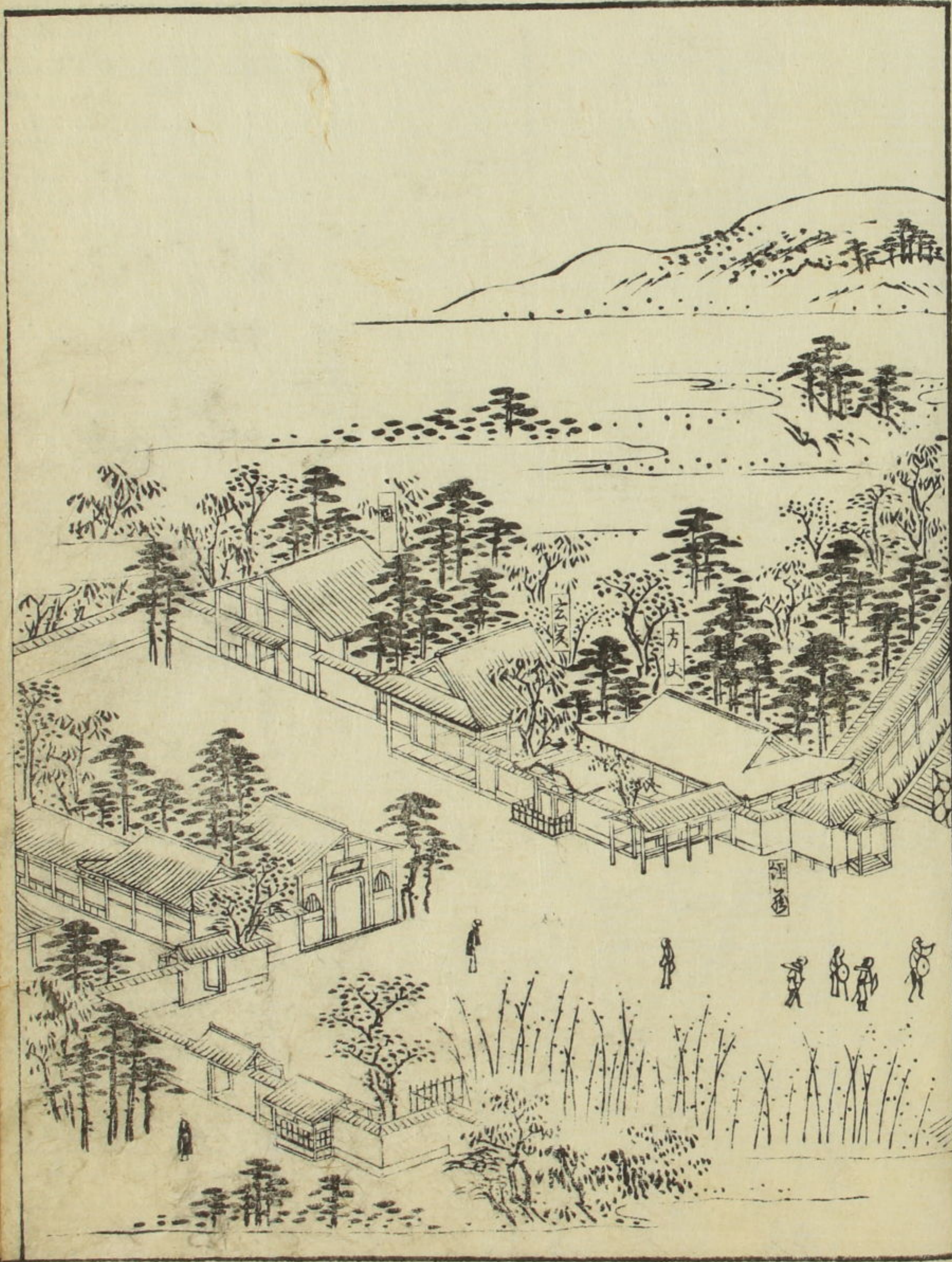
像を並當院の同祖ハ大業和尚五山僧祿司の號を蒙る約の跡ハ東の春

獨秀峯小あり大僧正道智常小ハ瀑布を愛し滅後小聖を創りて

當寺の護法神とし社を跡の側は建てしり神道智を仙佳境とし光明を

寺ハ道持政通家卿の墓ありし井ハ長末藏春峽壑雷橋としハ跡の邊小あり

羊角嶺ハ天授院の東の峰をいしりあり



永観堂



若王子



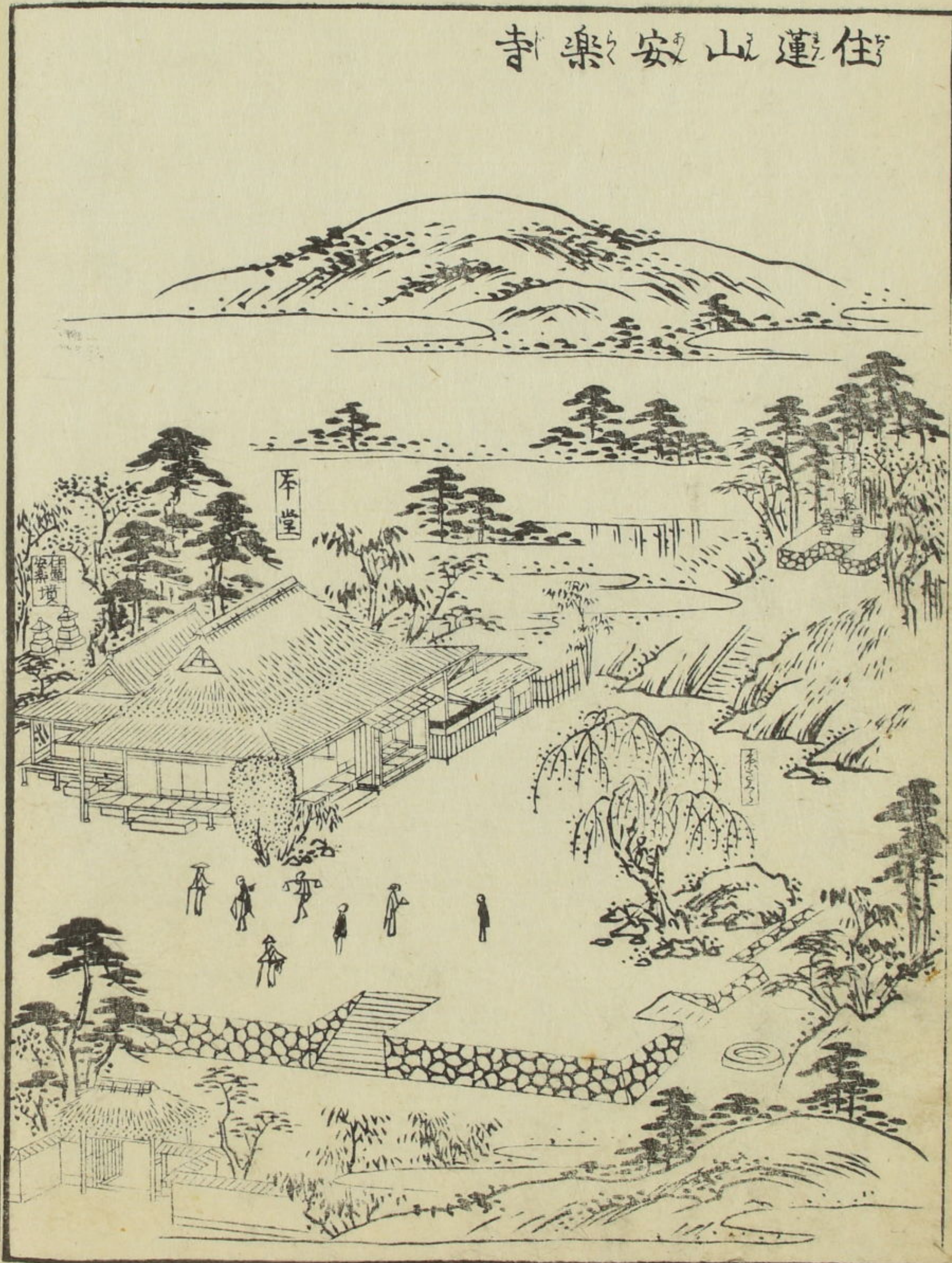
聖衆未迎山禪林寺永觀堂の南禪寺に隣りてあり深き谷ありて西山流之
 本堂の阿弥院如來を願尊と號を長く尺余の立像あり當り舊
 清和天皇の勅願所として真紹僧都れ草創之中奥の岡基永觀
 律師永保二年二月十五日晨朝衆僧もれ行道の念佛音をおもひ
 信感はひきくばて乾の方にてまろく踏踏せり奉尊檀をりたり
 おひて永觀とてと願命の律師感涙を流し是を末世乃流
 生を撰取引接の證ありとて自注の田沼瓜記されり
今當寺あり
律師の死に際
 の皇子深觀僧都のまより南都東大寺の勅進職小補せり四十二歳
祖師堂あり
 して地を雨居しやころ深空を覆ひて住せし因等の書を著せり
 善導大師自他の因光大師西山上人の二教を安んじ當り直言宗あり
大納言賴盛卿の惠孫
 遍所小住して深空の威後撰撰集撰撰して一向念佛の教を立し深觀朝卿經藏
ふくくまは小帰依しゆして衣運出久の爲に衣冠を轉後と具例あり
 の額法海の二字の芙蓉高泉れまより聖衆未迎の松の堂あり小ありあり
 夜四方に異香薫し音樂圓へて菩薩未集の松ひけ松の枝ありり之
山号いけ指
山よりあり
 中門のたふ徳化の學校あり舎下と称し徳化寺あり

正東山若王子の永觀堂の山隣り天台宗ありて修強道依義藏一聖
 後院小属に本社熊野之所推現宮の後白河法皇の幼法之侍若一
 王子を鎮座に親音堂の那智山の本地十一面觀世音を安置
 具一南に山下の湧あり 那智の湧をいふは當山むい宮殿壯麗ありて殊極花
 の名所なり鹿仁の宮のまゝのまゝとてく荒廢及ふらん
 靈芝山光雲寺の若王子の山隣り禪宗ありて南禪寺天授菴英仲和尚の
 再興西佛殿を尊の釋迦佛を安置したるありて靈芝山光雲寺に
 映したる北殿あり敷設ありて靈芝山光雲寺の奇觀あり
 寺を淨建宮ありて瑪瑙石の石鉢の佛殿は後小の當寺の奇觀あり
 鹿谷の靈鑑寺御殿の前を東より談合谷の其の如く一町斗小ありむあり
 俊寛僧都の山莊あり 新大納言俊親平判長康賴等所よ
 舎合し末弟成城と後孫と企し 如意嶽の東北峰小
 して樓門隨大本の古松四五本下小あり 鹿谷の八町 湧の右一丈余ありて長
 谷斗の雨の後小水坊に近なりけり敷の敷敷に南隣りて白雲巖を埋合淨りて
 万仞の青巖路を透り美流の近なりて衆山峻嶺ありて常小人跡掃あり

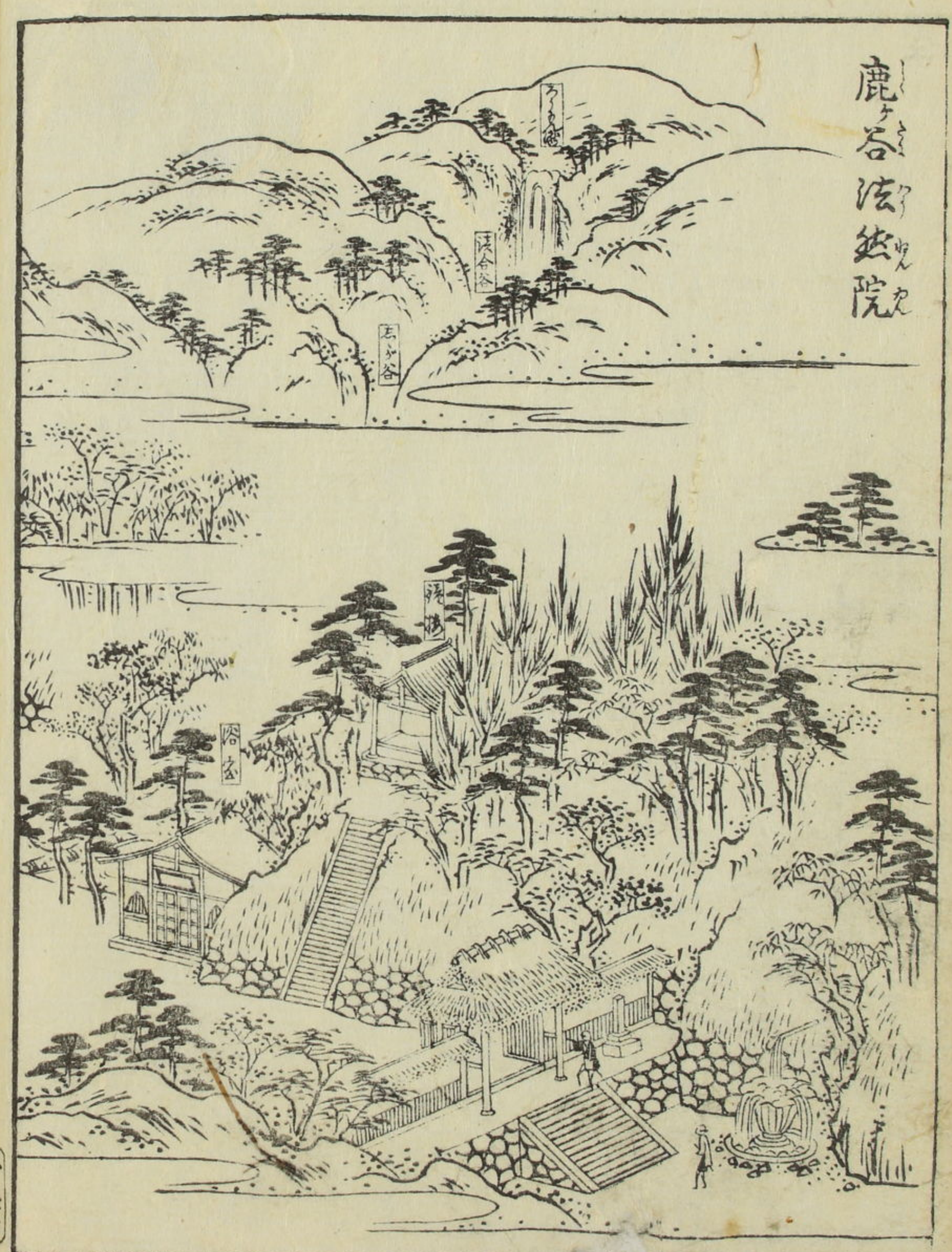
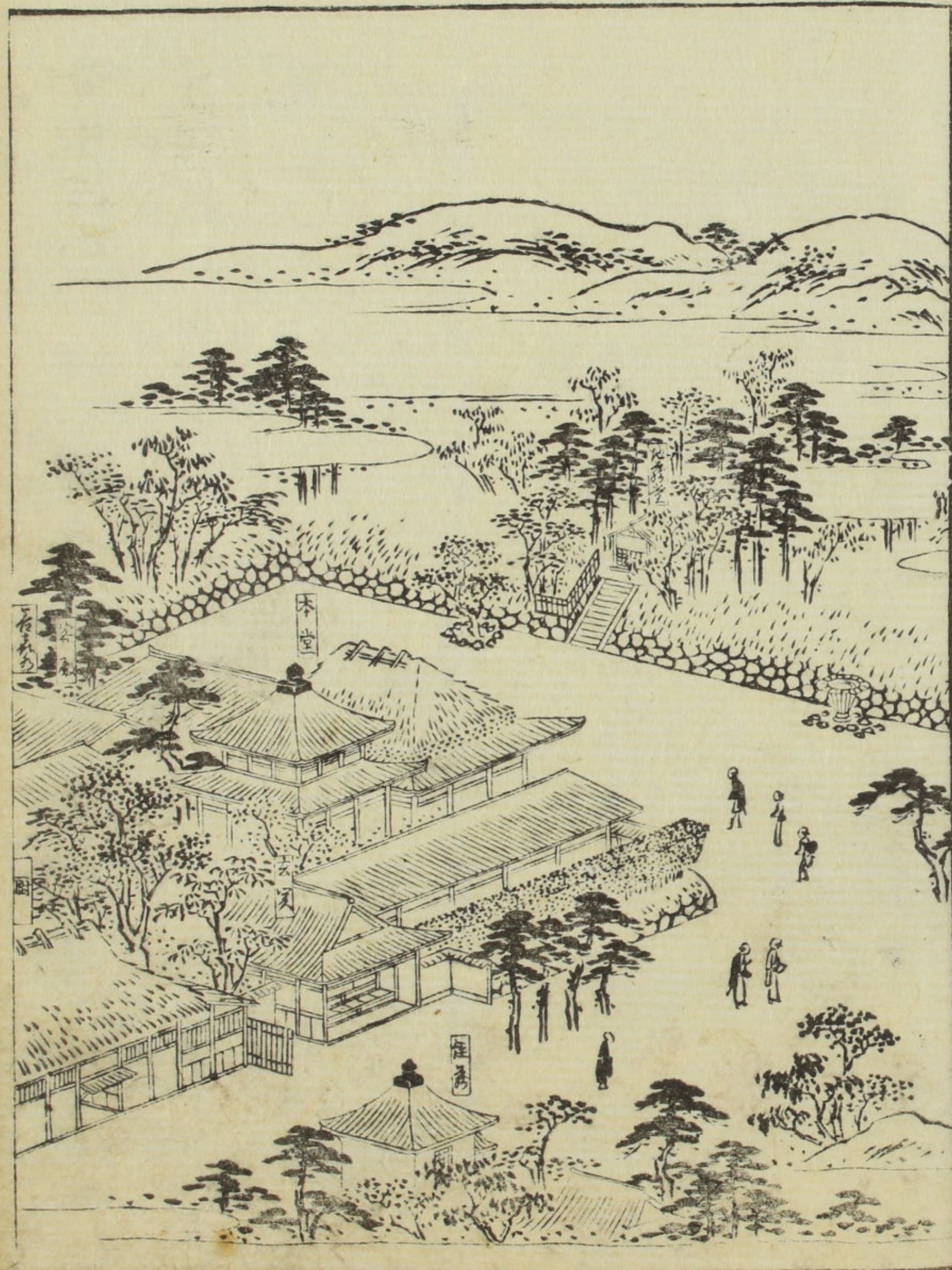
靈芝山光雲寺



住蓮山安樂寺



住蓮山安樂寺の鹿谷にあり奉尊の阿彌陀佛の坐像ありて惠心に化有り
 脇士の親も勢至を安並に其は運慶に化有りと後當寺の法然上人
 如法念佛を修め入地有り徒才住蓮安樂の二僧小附属の一人は
 後鳥羽院の愛妃松虫鈴虫の二婦一而當修の勸小入君んてけ房室あり
 尼殿 上皇太子逆鱗ありて二人の僧を刑し法然上人を四圍小た遷し
 其後多経て念仏弘法の回つるにも和住蓮安樂の二師を用ひたる
 善喜山万無寺の旧所あり奉尊の阿彌陀佛の坐像ありて惠心の化を用基
 万無心上人古法然上人艸房致宮も修念佛を修め入地跡之故法然
 院も號と奉堂のあり銅像の地藏尊を安並に客殿の庭小靈水の銘
 を看み水にけ地松風蕭然とてつひ小鉢のまたごとく時禮讚の舞
 の出谷小嶺一寂寥々々て峯の月がぐらりあり廬山の白蓮社
 ともたぐらりて清淨无塵の佛界あり
 世り六字の法免の念佛
 を鹿ヶ谷とつひけの
 称名と稱
 ろるり



鹿谷法然院

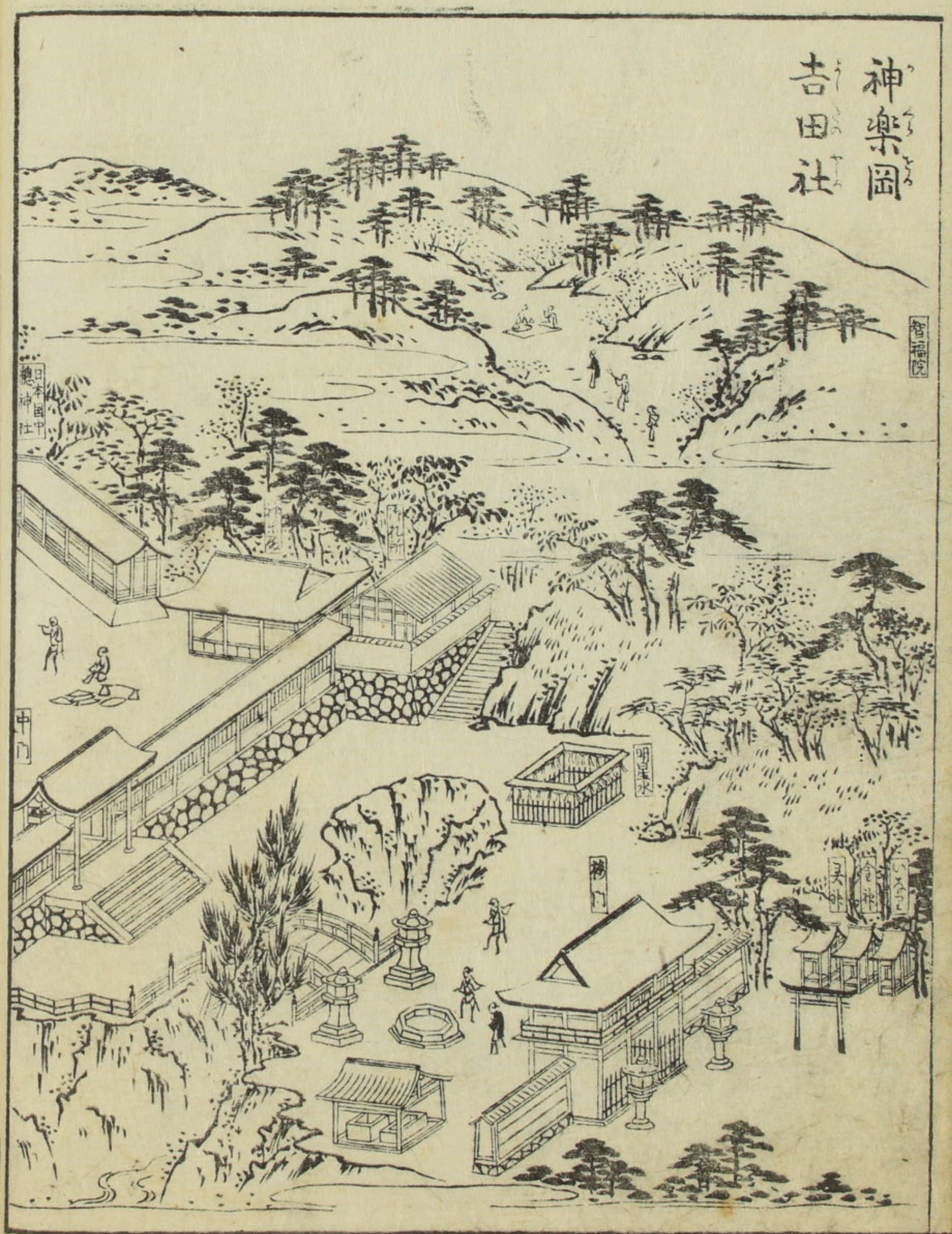
黒谷
金戒光明寺







新橋
 万代を
 子四つ
 君の
 たぬ
 吉田
 神系
 無源



神樂岡
 吉田社

吉田宮齋場所の神楽園あり

神代のやまを照らす神の光を八百万の神集りて神楽奏せし其の神楽はよりの神

當社の清和天皇の清宇貞觀三年中納言山蔭卿の勅清又一流小の神

曼延の造立ともいふ日本記の樓門の額日本最上兩神宮中門の額日本

最上神祇齋場あり其清水谷實秋卿の筆なりを奉教大宮宮より

日本神祇二千一百二十二座を鎮座しなり日本最上日高日宮の額の縁を

れ奉教大宮宮の額の後土所門院の震筆日本國中二千餘座大神祇

祇八百萬神額清水谷實秋卿の筆八神殿の額の後土御門院乃

震筆は社大内裏の時神祇宮小ありて八州守後の驗神祇崇まらば内

外の左神宮八神殿の左右小あり日本皇中の神祇を奉教の兩殿あり

びそあり必名と奉神社の敷たは春日の社の西麓あり是も山蔭卿の勅

あり其外務社神と奉委園不えたり明星水ありは所星ありなり龍は

表日社の傍あり日蔭の龍はより奉教の道より新谷寺の額あり

洛陽平新島の其一より傍は靈神なり信宿院は虚空藏菩薩安んずる

當所二面の園山ありて嶺は山脚踏喉礼と奉の尖符奉なり其

長徳山知恩寺百萬遍の澤土鎮西四ヶの本寺あり古く加茂の神宮あり

て慈覺大師の州創り法然上人鴨下上依尊信ありて感應を以て一室を

弘通しありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり

なりありありありありありありありありありありありありありあり



長徳山知恩寺
百萬遍

慈照寺の鹿ヶ谷の山にあり一名銀閣寺とも稱し禪宗ありて養憲
國師を因祖とす原け地は足利八代の將軍義政公文明十二年に
世勢を譲りて閑居しゆ別荘あり故に東山殿と號す延徳十二年
正月七日に
龍の山を慈照院殿喜山公と法名
遺命にゆいけ所を寺とす

東求堂の義政公の持佛堂ありて觀世音を尊とす又慈照院乃
像を安置し西のく上壇ふかく水引の濃茶を印金より舌渡り
て壺を稀る奇物あり右松の画の相阿弥れ筆別を多し永納れ画之
茶湯の間の四疊を以て東山殿の物敷あり茶亭四疊半并盤觴
とて高貴の賓客常に集會ありて茶の乃瓜柴之和漢の奇物と
號すありて後世小供りて時代物とす

二重れ高岡あり山鹿園寺に金閣あり上を公空殿下と潮音閣とす
鎮守八幡宮の護國廟とすく圓れまに橋ありて分畧橋迎仙橋
懼錦橋卧雲橋とす其のくく飛泉あり洗月泉と號流下れ橋

を龍脊橋とす仙袖橋仙挂橋の東求堂れまにあり慈照園あり
躑躅取極らまそ夕陽を止む向月臺銀沙灘あり白砂と浦と落
月と惜む細川石畠山石の官領職の敵ありて其英名は後
世に朽ど浮石坐禪石の比中にありて冷海橋山の傍あり龍蟠
石蹲虎石卧牛石伏虎石點頭石布袋石天柱峯回雁峯香爐
峯も其石の形よりて号す之北に石落星石壽星石懼發石
謝公塢の故事ありて名とす其外大内石爛柯石釣月臺仙人洲白
鶴嶋臨湖臺仙草壇ありけりれ山坂月まの中よりす神けを
東山殿れぬありて茶道相阿弥台命を蒙りて造りあり庭中れ
風光真妙ありて山の法式をまねと四時の壯觀足らざらざら
る末代庭造の軌範とすり洞庭西湖も掌り振り松橋象
瀉も目前ふくく壺中小山川を編免一粒の粟中に日月城
藏しり神仙術ありとて人みたり





けんせいの
 けんせいの
 はりてはりの
 けんせいの
 けんせいの
 けんせいの
 けんせいの



毎年七月十六日の
 夕暮大文字はきり火の
 法園寺の後山に燃えおこす
 といふは麓の浄土寺といふ
 天台の伽藍あり本寺の跡地は
 一々世田沼の跡に築かれり
 先師を祀らるるを奉る
 本寺の地は安土
 寺より干園金堂ふ光
 明の如くしと依り出依
 少りし其後弘法
 大師大文字ふりし
 有人星霜累々と文字
 のはも塵一の東山ぬ
 相國寺の核川和尚小
 命せられえのさやく
 依りしめりし文字
 初畫の一点も
 九十二のりし
 名月日方の且も

北白川の銀閣寺の山より望むれば名ありて川を氏家の中を西へ流る
是より名所之白川の其一なり

後拾 山後れ人よりむらむら河の園中もあはれ花を白くと 氏家郷長家

白川のまれ梢を見渡せば松を花の結るるなりと 後頼

新後撰 秋の夜れ月も澄らそ院まされ世にわたりぬ白川のみ 為教

け里の洛より近江の志賀坂本への往還より志賀山越らば素性法師
が君代との名を我ありたりとほくねり白川の麓の道の傍小ありて
日陰を晒し川に半に橋ありてとほくねり石をたたく流もりとき
弓もたたりて谷の水も漸歴くして流のゆるい花をたたく流
清くともて皎潔なる月の経開く橋のゆるいに牛石とありあり
形は牛に似たりは似たり是よりわづらひ山中の里あり比叡の無動
寺へまけ村よりまけ細道より山へ入る石のうこの一家より川あり流
小よりてあ車ありては

志賀の山越みくる井のと少くあてむらむら河の園中もあはれ花を白くと 貫之

むらむら河の園中もあはれ花を白くと 貫之

志賀の山越みくる井のと少くあてむらむら河の園中もあはれ花を白くと 貫之

山河小風のうけり流るる流もあはれ花を白くと 春道列樹

山中峰の白川の里より一里半ありて山越近江の場より長良川

山越と詠しけ峯はたふ三井あり相の清い志のうら風も流る

琵琶湖の風景一眼中にありて地勢標々として山を築りては

干菜山光福寺の百万遍に小あり豊臣秀吉公小干菜を多く献し

らりし號を賜る 俗小干菜より 又六所念佛れ本寺よりは有免許あり例奉

六月廿五日近郷より集りて六所念佛を執行しり

丸生山將軍地蔵の白川の山にあり原いむらの額小あり寶曆十二年

け地へ遷る本尊の石佛の地蔵尊長三尺の像と け地へ永祿年中城郭に

細川暗之將軍山に築城のより長亭あり して足利將軍義輝公

又とより具項にける像も城中に安置せし

小白川



小白川の
の里人の
石工の業
はよふまゝ
石を切り
て水鏡
に映る

其外さぬの
のなほくも
物理編まは
石工の業
はよふまゝ
石を切り
て水鏡
に映る



白川の



八大天王

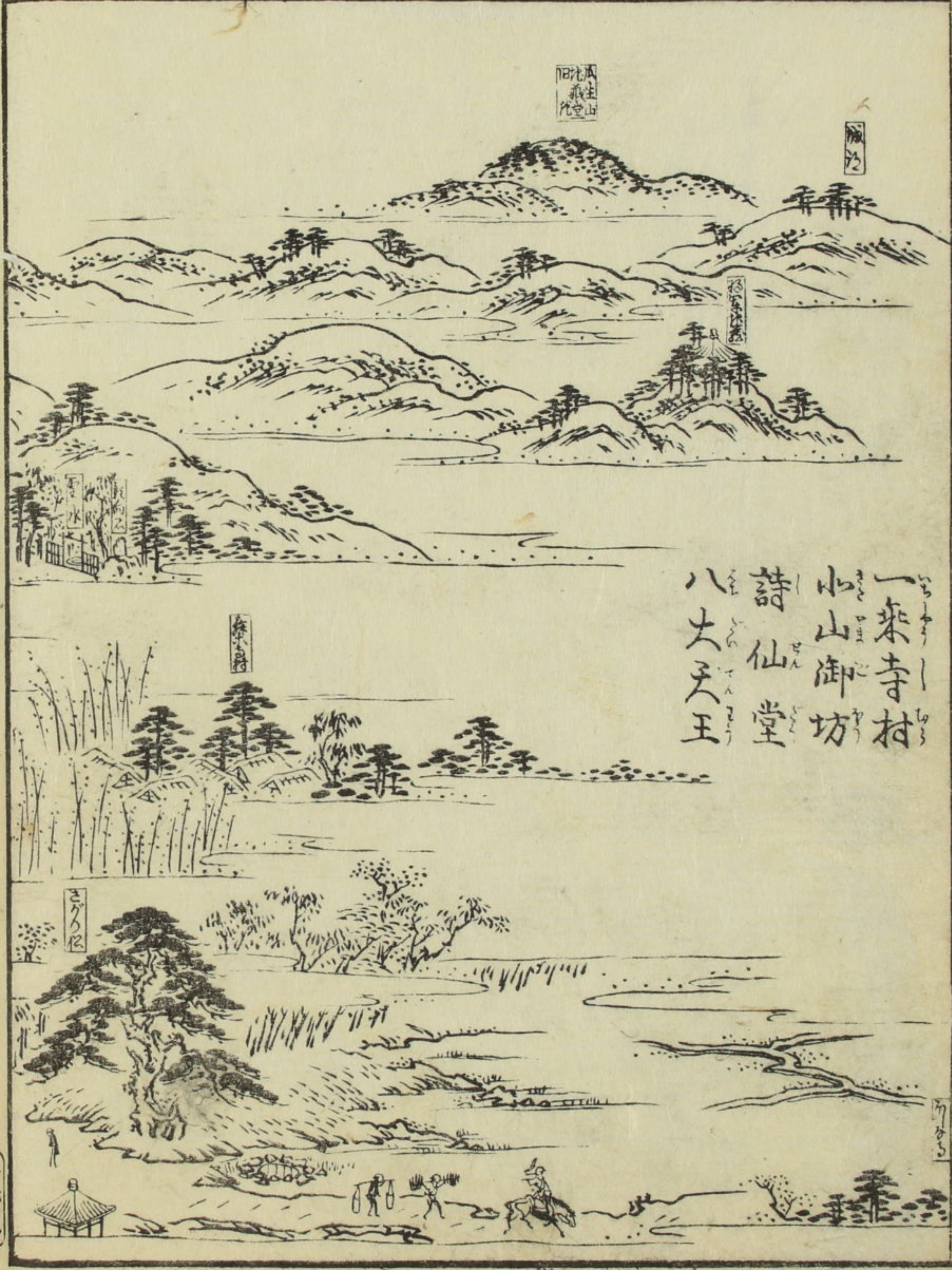
頂山

大正

大正

大正

大正



阿彌山

阿彌山

阿彌山

阿彌山

阿彌山

阿彌山

一乘寺村
 小山御坊
 詩仙堂
 八大天王

小山清坊親孝聖人の舊刹の一乗寺に御中舞樂寺村あり西存の
懸所よりひろい山門の末院あり法堂嚴重なり境地小靈水あり
故に聖水山舞樂寺と號を聖人淑嶽ふあり附一宗開發の志願頗ふ
しては所ふ来り百日別行し靈水ゆて垢離しゆい洛陽六角堂救
世記書にのゆい運ふゆい又あり夜夜中に聖徳を子地地り教向
ありて生極楽の要文を授めり果より他力存終の一流と弘末世の流
生分化益ゆり多靈水教向石もた清堂れ東あり永正年中ま
堂舎嚴然とりて其後荒廢小なる存終九代實如上人清堂茶創
ありて寂如上人の代小堂舎弘小神へりり
如上人當清門主門凌小命びり再清堂を建立しゆ
詩仙堂一乗寺村天王ふ至る南方ありて石川丈山の山莊に表に小有洞
の額あり中門の額に梅園路次の額に凹凸窠詩仙堂の額上の嘯月樓
下の峰要四壁あり漢晋唐宋宋詩人二十六輩れ像を畫則其人の

詩を丈山の書志の画の狩野尚信と我故に詩仙堂と云

右一 蕪武 謝靈運 杜審言 李白 王维 高適 儲光羲 韋應物 韓愈 劉禹錫 李賀 杜牧 寒山
林通 梅堯臣 歐陽修 黃庭堅 陳與義 九十八
邵雍 蘇舜欽 蘇軾 陳師道 魯幾 右十八

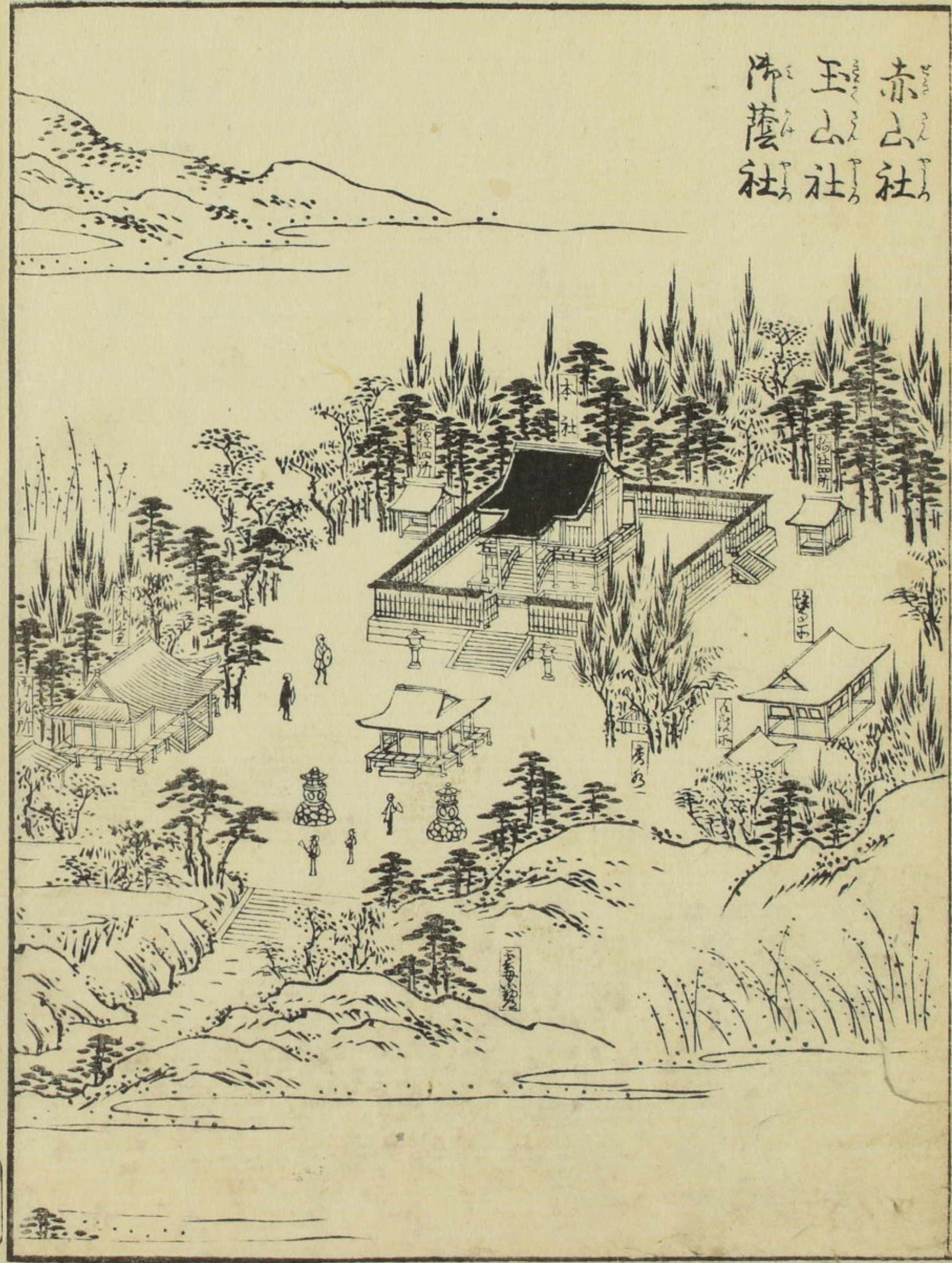
又ふれ境の詩仙堂の巽の方ふあり正保二年舞樂村の中ふ
壽壙を築て額仙祠と號を丈山元二居士の竹林小居一誓て鴨川を渡らば

天王社一乗寺山下里松の末にあり古の舞樂のやしるると八丈天
を参り末社の諏訪八幡宮に地の氏神ありて例祭の二月又日あり

赤山の社の修學寺村の末ふあり是是大師命壬午り歸朝のや死
明神の白羽の矢角ありて船の上に現し天台守護とありあり神院す

とめては所に細清のり轉宅の節當社の神れをめて家に神前に迦字の
梵字を三所ののり本堂の地藏菩薩ありて是是大師の能り

玉山稻荷社の高野村にあり原内裏ふあり祠あり享保五年中い地人
願らる所あり



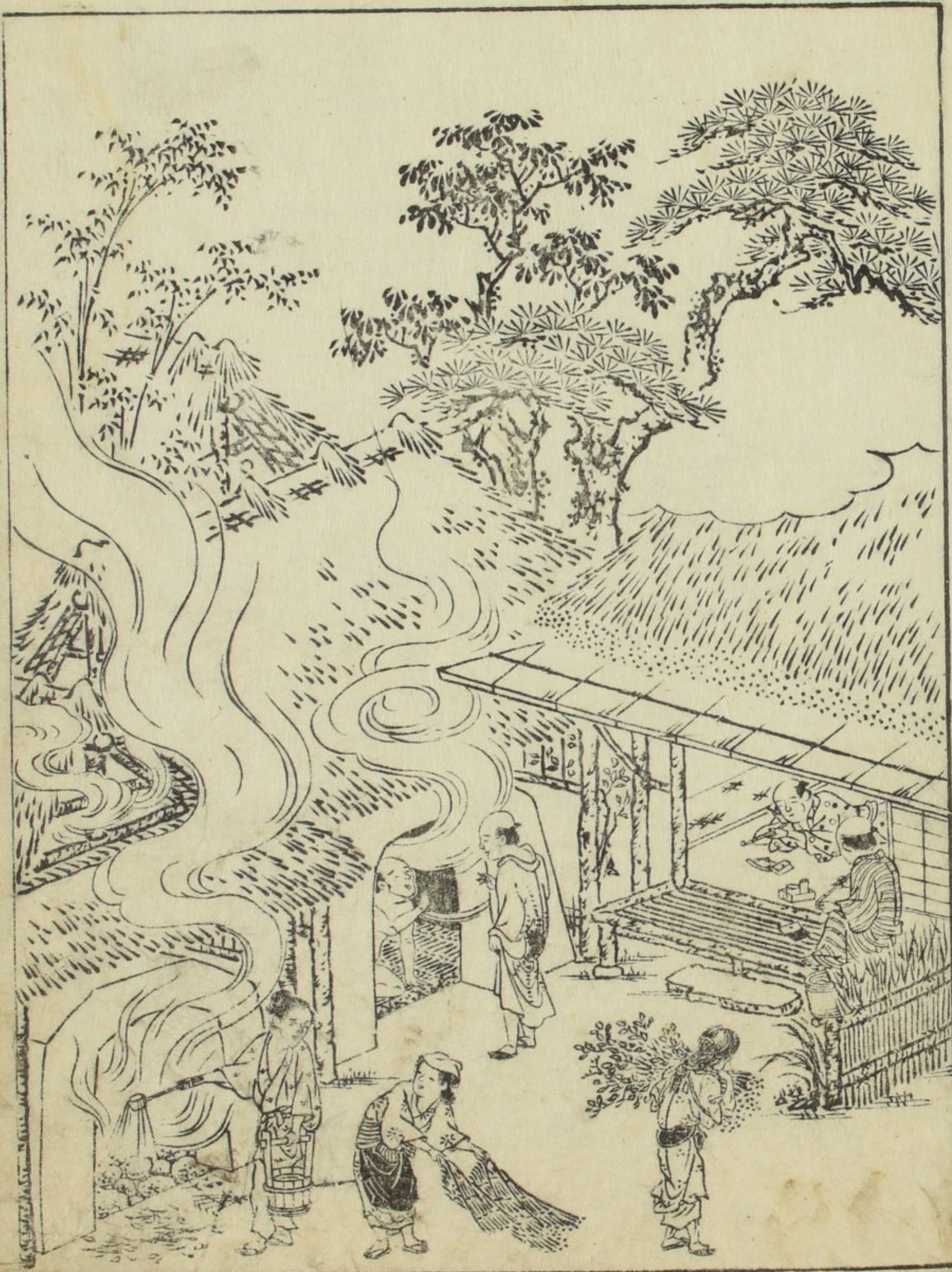
八瀬の里人の
 いふへの
 風俗
 男も
 女のふく
 髪を
 女も男は
 脚さの向ふの
 草鞋の
 尻せん（おしん）の紐
 黒き（くろ）の故あり
 糸（いと）

氏神天はま
 の
 茶々の脊（せ）を
 してさへ八人
 くらりたる處
 山西塔（さいしやうた）より
 振本（ふるもと）より
 侍人（さむらい）は
 鬼の洞（おにのほら）に
 里の西の方（むらとのにし）に
 昔敵（むかしあか）の悪鬼
 鬼月（おにづき）丸（まる）といふ
 位（くらい）とさの羅山
 文集（ぶんしゅう）の酒（さけ）顛
 童（どう）ふれ洞（ほら）と祿
 小（こ）



清蔭社を敷山の西麓高野川に東小あり下鴨皇を神宮際臨乃
たより故小清生山といふ例案に四月中に午の日に内裏より恒例
に祭式魏々として氏人の騎馬あて烈然正し祓るみ錦蓋をたじ
楯鉦弓等の神具さへく烈りまふと下鴨に林隘幸あふ之
かいて祈るそのつとれ人ともあぬをりやむり 雅經
矢背の里の高野の北西小あり天武帝大友王子と位と彈いて山城の
小馳のひ一時王子の軍兵追うをりて射けられ清脊小矢中たり
けり人に名とて又八歳 當所小電風呂あり天武帝此矢のたよ金のとめ
まのうひと始り 今も電風呂七軒ありて何れも國名と名をふり
大原の八瀬の山一里小あり若狭街道にして東西小八の郷あり 上野村
大長瀬村 東近院村 勝杯院村
井出村 野村 草生村
新 日救ぬる雪け小はるる山電煙もさひ大原乃里 式子内親王
大原のくは高祿の近を雪うり夜成るひをせやれ 西行

惟喬親王遺跡に上野村にあり 聖墓ありて五輪石塔あり 岡居の地
西方院 上野村小あり 岡居の 極取院 大長瀬村小あり 奉養の 孫陀佛
融通寺に東近院村のくがにあり奉尊の孫陀佛の坐像ありて
湛慶の化より岡基良忍上人の像あり 當寺融通念佛の岡祖之天治二年
といふ自稱の念佛の功徳とあり他は隨喜して是を修する小具功徳又自小像と
是自他不二平等融通を不可思議廣大の善功ありとて
魚山東近院に融通寺の東小隣る奉尊の三尊ありて中央に藥師佛 左釋迦
岡基の良忍上人の地に巖嶺西塔の小谷ありて昔の坊舎一百余あり
一より魚山と號するに漢土の天台山の西に大原魚山といふ所も天
台山の支山ありをけ例にまのりてるのり
音無龍の東近院の東四町あり花泉二丈余ありて翠華山小侍人
て南へ落る蒼樹蔭鬱として陰涼なる所徹し毛骨悚然とて
く近たりて
小野山のくよりなる流の名の清きよのくありて袖をか 西行



八瀬電風呂

新編古誹諧

ひよ

ありふ

衣とれ

屋を

とけ

ぬ

おん

あり

清浦



新古今
 世をそむく
 ういりつこも
 びぬや
 大原山
 径より
 和泉武ア
 大原山
 いしごりげの
 敷をこぼ
 つた
 少稻井尾



大原
 勝林院
 東途院
 融通寺
 善徳の湯
 呂律川

小野山いささしの遊れ山をいむりいけ所を炭を焼く和お小塚と

拾ま 右山本と胡を多るありはあそをを炭を焼く好忠

後拾中 夕されいあ方さそる居て秋風さう小野れ條原 藤壁門院

呂律川 魚山と勝川二流あり呂律川とつら其例よりありと其

絶捨藪 呂律川の山ありふ系回るのた絶捨藪を絶して法然上人

絶捨藪 小供と絶捨のいりく師の絶捨藪を絶して法然上人

井の清水 井の清水のまの川 四そそりは川 石垣のまの川

熊谷腰掛石 律川の橋南の法ありま生法師け所に

梶井宮圓融院 梨本房の呂の川の山あり天台の座主して諸門派

推てあね後祖とん 當院あり東坂本あり梶井の芝と今も四のる

極楽院 當院あり恵心僧都の妹 青山庚辰の墓 炭を焼く一前の廣り

護法石 當院の門前庭の傍あり皇慶河圖梨とふ智法傍ありと大重なり

魚山勝林寺の梶井清殿の山あり本尊法持阿弥陀と號と坐像あり

して長七尺佛子の祖康成の依之當院一條た右推信公の息少入道

寂源法師の州創りむり一叡山の僧都奉覺超同靜慮院偏教と

ていそした智者のありたけ如來のあふ於て佛果の空不空の議論

ありたり是紹不空とのいけに如來相好法源一偏教の空の義法立

のふの河て相好法ありむり中道實相を如來の本えられ

とらふとまよ於て終てなまう世の人體標孫院と稱けり又文治二年乃

秋法然上人と山門座主顯真法帝法略め法宗は学徒と一向專修れ回答

有りし法然上人は法論ありた本尊光明と教もあされ法宗同答

とらふ法宗は知識より上人の法は依一顯真またらまら修の行也

とらふ則は法坊又信の稱念念佛結とらふ

實光坊 勝林院の廟あり後法宗の法常行堂 聖観音安坐及恵心の佛

加表衣のける 勝林院村の西あり白土まは師人宗は信の佛



古知谷阿弥陀寺

古知谷光明山阿弥陀寺は勝林院より十八丁ありむのり谷と後土宗ありて
 本尊阿弥陀佛の惠心僧都の住り當寺の同基彈誓上人を尾張
 國あまの里小出生一幼名飯彌釋丸と號と九女の時出家一吳波國
 塚尾の親も小百日系務一念佛諸行は勝を靈文飯さむりより
 ちり自行のたふふ小居一あり圓く飯經廻一と花洛小至り又系の
 橋飯通りぬりた活水のくたは茶を空小懸鍵光明赫々として
 所ありた飯慕くて遂にけ所小至り是と有縁の靈地ありとて則一
 宇の堂舎と建之たり具時頭小雪飯くたはる老翁阿弥陀佛
 一鉢を持來り本尊ありぬと上人小あへん終としてり方る當寺
 本尊よりまるとり同山堂小彈誓上人自化の儀飯安をた
 在者より飯後け係は髪と
 杖の世は杖髪は本係とも
 芥生里大系御よりありありと和あよ多く縁と
 大系や芥生の里れ月いりりりり我身もまらるん
 実家

大京寂光院



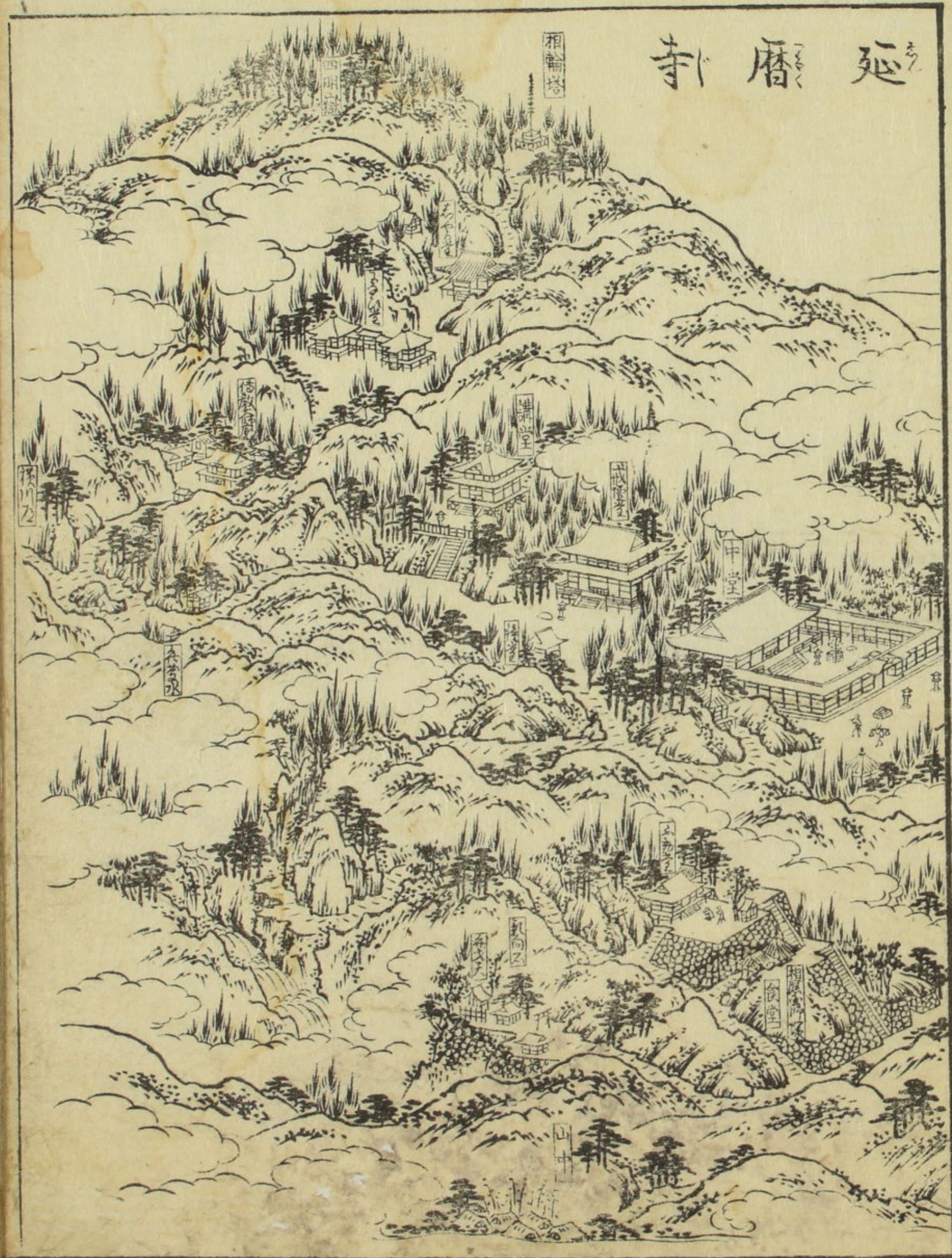
寂光院の草生村あり原弘法大師に開基して文治の建礼門院
 閑居のいしより今亦ありたると尊地蔵菩薩の聖徳を
 の清化より則門院の清寂阿波内侍の像ありたるとの池とわたり
 地みふみさの櫓ありて浪の花をほり成りれ 後白河院
 け迎の垣瓦緑菫垣とて門院の清境は後の宇よまれば坂車無心と
 つ不動干岩石石劔の他より鎮守神明宮 岩窟あり清舎の清寂光院のあり
 ○建礼門院とて平相國清盛公の清女ありて十八歳ありて女侍の宣旨ありて十とて更夜
 のつひよそより廿二の清時皇子清隆生あるとて安徳天皇とて平家の一門西海とて大木
 の附やうく源氏の武士ふとすけらまるとて清隆のひ初は赤木の鹿五田の迎へ候あり
 廿九の清時わたり坂ありとてあふくせらまるとて安徳天皇とて長月の末は寂光院入りてあり
 手塚物語
 〇いさゝか清心の奥ふさむわけても雲井月をそとげんんは 建礼門院
 け地はま寂寥として人跡まをに洛のつよまるとてまの清野の梅ありて
 の若柳となりあひ青柳の系風よりのれ松のゆるりて花橋白あり清舎あり
 秋のく物林く心のまのたれら離れ近きとてあまらく虫の音つれり
 〇いさゝか大京の室の清寂を思ひて法乃舞さけ 建礼門院
 け清涼よりいませ村あり今もくつとまの清野あり

敵嶽不動寺の崎
 より琵琶湖をくろ
 うにんかろせし樂こ
 波や丹穂の沖の
 舟の釣舟にかくれ
 ぬづの松のたぐ
 きに翠れをぬあ
 り淡のまの地
 駒とめては良の高
 根のたぬん
 泳頼政の昔も
 といふれは
 王維の山水れ
 画賦小遠人の



回り大山人
 樹す馬豆人の
 旋もけ所をりれ
 雙眸小渡りく
 淡海の八勝連
 錦くして近衛
 政家卿も魂と
 うごりぬい
 佳境あり





延曆寺



比叡山

良嶽從來守茶農
 先王立作園家鎮
 雲波五色三津浦
 星斗千年七社神
 湖水朦朧空得月
 山櫻寂寞目過春
 好風景非無意
 吾亦東西南北人

羅山子

比叡



千載
おぼろの宮
おぼろの民
おぼろの松
雲波の神
慈園

比叡山延暦寺一乘止觀院は本朝五岳の其一なりて王城鬼門小當れに改
 峰も號をとりぬ日枝山と書し改桓天皇は宇延暦年中に傳教
 大師と叡慮致等一帝都鎮護として根本中堂を建立せり
 叡山を改し又別名ありて天台山我立松長岳鷲峯台巖
 新吉 比叡山中を建てるなり
 阿耨多羅三藐三菩提の佛速我立松實のありて 傳教大師
 我立のありての地なりて邦のありていれる所と 漢名は
 東塔 止觀院と號を西塔横川を合せて三塔といふ
 東塔の東谷は十一坊西谷は十一坊南谷は十

根本中堂 二坊外谷は十二坊あり 釋迦文殊弥勒を安置し
 荷擔して有りて五臺山のちり 文殊樓 五臺山にありて
 大講堂 本堂なり
 千手堂 千手觀音を安置し
 前唐院 慈覺大師の廟堂なり
 千手井 又和名ありて西塔にありて
 山王院 山王神ありて南向の地なり
 淨土院 俗姓は三津氏四州志賀郡の人なり

西塔

寶幢院と號と西塔の東谷より九坊南谷より十坊

法華堂

本尊の普賢轉法輪堂

本尊の釋迦女殊四天王兼和元年常行堂

阿彌陀佛

安堂の阿彌陀佛

五年靜觀僧正遠之なり

椿堂

如意輪觀音安堂の山門建立の如意輪觀音

王威の東小に

寶幢院

惠心和尚の寶幢院

相輪堂

青龍寺

黒谷よりあり本尊は殊

十一面觀音名居士

横川

楞嚴院と號と十四坊あり

中堂

本尊聖觀音の慈覺大師の位

慈覺大師廟

釋良源より入永初二年二月

大師堂

村上天皇の神祇ありて慈覺大師の開基

觀音堂

安樂院

惠心僧都位の入所之本尊阿彌陀佛

飯室

飯室

横川の別所之寶藏寺

惠心僧都位の入所之本尊阿彌陀佛

無動寺

或は無動寺に位

不動堂

大乗院

山王七社の中客人宮

辨財天

雲母坂不動堂

惠心和尚の位

當山名勝

四明嶽

嶽の巖を云母坂より登りて右小嶽あり

満土混論

東谷

東谷より坂をへりて

花玉院あり

山王七社

中客人宮

辨財天

雲母坂

不動堂

當山名勝

四明嶽

嶽の巖を云母坂より登りて

満土混論

東谷

東谷より坂をへりて

花玉院あり

山王七社

中客人宮

辨財天

雲母坂

不動堂

當山名勝

四明嶽

嶽の巖を云母坂より登りて

満土混論

東谷

東谷より坂をへりて

花玉院あり

山王七社

中客人宮

辨財天

雲母坂

不動堂

當山名勝

四明嶽

嶽の巖を云母坂より登りて

満土混論

東谷

東谷より坂をへりて

花玉院あり

山王七社

中客人宮

辨財天

雲母坂

不動堂

當山名勝

四明嶽

嶽の巖を云母坂より登りて

満土混論

東谷

東谷より坂をへりて

花玉院あり

山王七社

中客人宮

辨財天

雲母坂

不動堂

當山名勝



青蓮寺